明治三十九年十二月二十日發行

（明治二十年十一月本會創立）

婦人衛生雜誌

第二百五號

第三種郵便物認可明治廿六年四月四日
每月一回二十日發行
內務省許可明治三十一年三月二十八日

私立大日本婦人衛生會

婦人衛生雜誌

第貳百五號目次

名家演壇

一疾病の話　ドクトル 富士川 游君

大家談叢

一實扶埀里亞と感冒●咽喉のヂフテリヤ●感冒の用心●夜中の放尿●寒夜共寢●感冒と下痢●一時性の咽喉狭窄●母親の誤解●小兒の蟲と疳●夜泣き●驚起●泣く子　瀬川博士

一女と男の差違●精神●考慮●腦力●體格●柳腰●男女機能●受胎性●女の三大役●成熟●月經、姙娠、閉止●生殖機能の差●婦人病等　N、M、

一緒方博士の恙蟲病談片

質疑欄

腦膜炎と盲目●滋養物とは●長壽法●顔面のシワ●腸チフスの事●履み抜きしたときの注意、破傷風のこと等

雜報

トラホーム菌發見●日本の死産●小兒と肺結核●猫とペスト●リヤウマチス●睡眠と休養●齒と美醜●花柳病●癩病法案●傳染病研究所の新築落成●ペスト豫防注射液●混砂米排斥會●昨今の小兒病其他

季節料理

治庖會主事 安西こま子

椀●茶わんむし●フイシユサラダセロリー●スライセスビーフ●ヒーナットブーチング●ブレッドバタブーチング

お正月雜煮●仝あしらへ物●早ぞうに●口直し即席ぞうに●手輕茶碗むし

大日本婦人衛生會記事

本會及山形、新潟、例會景況及入會轉居●新刊紹介●寄送交換雜誌等

明治四十年一月

新年會通知

來一月十二日(第二土曜日)午後一時半より新年相互の禮を兼ね神田區一ツ橋女子職業學校に於て新年會相催し左の餘興も有之候間御知友御誘引御來會有之度此段御通知申上候也

一 新年の辭

一 おもしろき餘興 二三種(考案中)

稟告

年末に相成整理の都合も有之候間會費未納の御方は本會事務所(東京牛込上宮比町八番地)宛至急御送附相成度候也

明治三十九年十二月

私立大日本婦人衛生會

私立大日本婦人衛生會

設立趣意書

凡そ人として此世にありては徒に生けるのみをもて足れりとするにはあらずかならずや智識を磨き人たるの本分を盡くし幸福快樂のうちに一生を送らんと皆ともに希はざるはあらずされども其身健康にあらざれば此生活を得んをいと易からずこれ衛生の道の一日も忽にすべからざる所以なりとす

抑も／＼衛生の法は一にして足らずとはいへども衣食住の改善育兒及看病法等の如きはいとも緊要の事にして昔尊婦人のもつぱら掌るべき所其責任重しと云ふべし今や婦人の會合相尋て起り婦人社會も漸く其の面目を改めんとするは實に喜ばしきことなりされども夫の衛生の事に至りては更に注意を惹かざるものゝ如くまことに口惜しきことなり因りて頃日同志婦人集ひ謀り一會を設け名けて私立大日本婦人衛生會といひ毎月一同集會を開き學識經驗ある人々に衛生上諸般の講義演說談話を乞ひ互に相研究し術之を筆記して册子を編輯し會員に分ち聊か同胞の爲めに盡すあらんとす茲に本會旨趣の梗概を叙べて廣く江湖の諸愛姉に告げ其賛成を仰ふぐことしかり

明治二十年十一月

首唱者總代

私立大日本婦人衛生會規則摘要

（明治廿二年十二月改正）

第一條　目的　本會の目的は汎く婦女子をして人生の健康を保持する方法を講究し衛生上の智識を開發せしめ闔て社會一般の幸福を増進するにあり●第二條　本會は私立大日本婦人衛生會と稱し之を東京に置き地方に便宜支會を設く●第三條　本會員たらんと欲する婦人は何人にても入會するを得●第四條　入會の節は姓名族籍住所及會員の種類を明記し本會事務所に申込まるべし入會者には會員證を交付す（交付手數料末に詳かなり）入會後轉居等あるときは速に事務所に報知せらるべし●第五條　會員を分ちて終身、特別及通常の三種とす、終身會員は一時に金廿五圓以上特別會員は一ヶ月金三拾錢以上、通常會員は一ヶ月金拾五錢を納むる者とす●第六條　男子にして本會の旨趣を賛成する者は之を贊成員とす其會費は本會員に同じ但本會に功勞ある者又は本會に於て特に贊成員たることを望みたる節は役員の協議に依り無會費とすることあるべし●第七條　會員は本會に於て毎月發刊する雜誌を無料にて受ることを得●第八條　退會せんとする者は其旨本會事務所に報知し死亡する時は親戚知友より報知せらるべし但既納の會費は總て返戾せず●第九條　本會に推戴員を置き其中より總裁一名を奉じ皇族の妃殿下に願出るものとす●第十條　本會に左の役員を置く會長一名、副會長一名、幹事七名、評議員二十五名、書記若干名●第十一條　會長副會長幹事評議員は隔年三月の總會に於て會員の投票を以て之を選擧し書記は幹事の推薦に依り會長之を命ず但書記は本會に由り會員外の婦人若くは男子に託することあるべし●第十二條　會長は本會を總理し副會長は會長を補け會長事故ある時は之を代理し[illegible]

[illegible]

得●第廿八條　本會の雜誌は支會に同送すべきを以て其費を支會より本會に送付すべし支會限りの會員にして雜誌を請求する者に就きても亦同じ●第廿九條　支會は集會の都度其狀況を本會に報告すべし●第三十條　本會は毎月一回雜誌を發刊し之を會員に配付すべし●第卅一條　會員又は本會員外の者にして金錢若くは物品を寄附する者ある時は[illegible]として別に[illegible]東京府下に限り毎月領收人を差出すべし地方會員は總て前金とし小爲替にて本會事務所所在の郵便局（牛込築土八幡町郵便扱所宛）振出しあるべし●第卅四條　會員中若し本會の障害となるべき所爲ある者又は會費を督促するも納付せざる者あるときは會長評議會の決議を經て除名し若くは廣告することあるべし

事務所　東京市牛込區上宮比町八番地　私立大日本婦人衛生會

●役員姓名

東伏見宮依仁親王妃

總裁　周子殿下

會長　侯爵夫人　鍋島榮子

副會長　濱尾作子

（いろは順）

幹事　鳩山春子
仝　羽田三耕子
仝　岡田總子
仝　高木かう子
仝　山本多穂子
仝　松平芳子
仝　三浦敎子

評議員　石川貞子
仝　岩下ゆか子
仝　濱田捨子
仝　長谷川仲子
仝　仁禮壽賀子
仝　四　升子
仝　穂積歌子
仝　土肥多越子
仝　緒方悦子
仝　岡山とし子
仝　小川孝子
仝　男爵夫人　加藤鈴子
仝　片山敏子
仝　吉武輝枝子
仝　丹波貞子
仝　高橋學子
仝　田村きゝ子
仝　男爵夫人　南部限子
仝　中濱芳子
仝　子爵夫人　松井正子
仝　岸　逕子
仝　三宅藤子
仝　宮本樂子
仝　宮下咲子

●支會　千葉、新潟、山形、宇都宮、茨城、高崎、米澤

本會特別賛成員

（●は本會の爲め講演又は執筆せられし諸氏）

醫學博士　●入澤達吉君
理學博士　●飯島魁君
ドクトル　●伊澤信平君
●色川圀士君
醫學博士　●伊東祐彦君
ドクトル　●飯盛挺造君
醫學博士　●伊藤隼三君
理學博士　●石川千代松君
[illegible]　岩井禎造君
醫學士　●石原久君
醫學士　●野瀬雄一君
醫學士　●石原喜久太郎君
貴族院議員　濱尾新君
醫學博士　●濱田玄達君
法學博士　鳩山和夫君
東京　萩原綱四郎君
醫學博士　芳賀榮二郎君
長谷川泰君
新潟　長谷川一銓君
小兒科　小原釘之君
醫學博士　●岡田榮吉君
醫學博士　●林春雄君
醫學博士　●佐藤達次郎君
醫學博士　●緒方正規君
歩兵中佐　●堀内文次郎君
醫學博士　●土肥慶藏君
醫學博士　●岡田和一郎君

醫學博士　●大澤謙二君
醫學士　●大西秀治君
醫學博士　●大澤岳太郎君
一等藥劑官　●恩田重信君
醫學士　若杉喜三郎君
男爵　●加藤弘之君
醫學博士　●加藤照麿君
醫學士　●賀古鶴所君
醫學博士　●河本重次郎君
醫學博士　●片山國嘉君
醫學士　●川上雅量君
醫學士　●樫田龜一郎君
醫學博士　●金杉英五郎君
醫學士　●笠原光興君
醫學士　●唐澤光德君
醫學博士　●高橋順太郎君
ドクトル　●高山紀齋君
醫學博士　●高木兼寛君
法學博士　高木豐三君
醫學博士　●田代義德君
新潟　●田代亮助君
男爵　●高崎正風君
醫學士　竹中成憲君
醫學士　●高田耕安君
[illegible]　●高橋辰五郎君
藥學博士　●丹波敬三君
醫學士　高橋良頑君
藥學博士　●田原良純君
醫學士　●田村光顯君
醫學士　●久保猪之吉君
醫學士　●米山彦郎君
二等軍醫正　●星野傑光君
醫學士　●宮本叔君
三等軍醫正　●横井忠閑君
大日本教育會長　辻新次君
理學博士　●坪井正五郎君
醫學博士　●長與稱吉君
男爵　南部翅男君
[illegible]　●長井長義君
醫學博士　●遠山椿吉君

醫學博士　●中濱東一郎君
醫學士　●黒田玄道君
醫學士　●栗本府彦君
海軍中佐　●小笠原長生君
醫學士　村松紙三君
醫學博士　●隈川宗雄君
醫學博士　●栗本東明君
醫學士　●山田鐵三君
醫學士　●山田弘倫君
醫學士　●山根正次君
岡山　山川春二君
[illegible]　●丸山長四郎君
ドクトル　●松山陽太郎君
ドクトル　●小此木信六郎君
盲啞學校長　●小西信八君
廣島　小泉貫君
醫學士　●古川榮君
東京　布施正顯君
[illegible]　●後藤新平君
[illegible]　●エ、ベルツ君
醫學士　●甲野棐君
文部書記官　●寺田勇吉君
醫學士　●寺田豐作君
醫學士　●寺田織尾君
子爵　●秋元興朝君
前軍醫總監　●足立寛君
ドクトル　●新井古芳君
ドクトル　富士川游君
高崎醫會長　土谷余次君
産科婦人科　●水原漸君
ドクトル　●久保田誠麿君
醫學博士　●佐々木政吉君
醫學士　●淺田　次君
醫學博士　●朝倉文三君
ドクトル　●朝山義六君
高崎　●秋田聰太郎君
醫學博士　佐藤三吉君
醫學士　●櫻井郁二郎君
醫學士　●佐藤恒久君
ドクトル　佐伯理一郎君

醫學博士　●榊順次郎君
醫學博士　●榊保三郎君
醫學博士　●櫻井恒次郎君
醫學博士　●桐淵鏡次君
醫學士　●北村樹造君
醫學博士　●北島多一君
ドクトル　●北川乙二郎君
醫學博士　●木下正中君
醫學士　●北島小太郎君
醫學博士　●北里柴三郎君
醫學博士　●三浦守治君
醫學博士　●三浦謹之助君
小兒科專門　●宮本仲君
理學博士　●箕作佳吉君
醫學博士　●三島通良君
醫學博士　●三宅秀君
醫學博士　●三輪信太郎君
伯爵　土方久元君
醫學士　●島村俊一君
醫學博士　●弘田長君
ドクトル　●日高昂君
ドクトル　●須田亨爵君
醫學士　●澁川德君
醫學博士　●木村德衛君
醫學博士　●森林太郎君
醫學士　●笹川三男三君
醫學士　●波多野傳君
醫學博士　●奥秀三君
ミス　●リツテル
ミス　●ヒユース
ミセス　●コーツ
ドクトル　●菊池循一君
醫學士　●橋本左武郎君
醫學士　●鳥居春洋君
ドクトル　●土田卯三郎君
ドクトル　●佐藤迪雄君
ドクトル　●西山信光君



衛生學の始祖ペッテンコーヘル
壯年時代の寫眞



同上
晩年の寫眞

名家演壇

疾病の話（前號の續）

ドクトル　富士川游君講話
佃速記事務所員　速記

私は前回に引続きまして疾病の事に就て御話致します、此前の回には病氣を起しまする原因の中で、人間が生活して行く條件に普通の條件と特別の條件とあつて、其條件が巧く參りませねば終に病氣が起ると云ふ事を御話して置きました、今日はその特別條件に就て御話致さうと思ひます。

普通の條件は或は食物とか、或は着物とか云ふもので、何の人にも同一なのでありますが、特別の條件は、人々に因つて其趣を異にして居る、それを極く簡短に御話いたしませう。

第一番には年齡、年齡と申しますと、人間が生れて死ぬまでの間に段々と年を取ることを申すのでございます、それて御承知でも御座いませうけれども、人間の一番小さい所のもの即ち卵の大さは〇、二ミリメートルてあります、是は人間が母の體内に在る一番最初の卵子の時てありますが、それから生れる時には〇、五メートル、六歳になつて一、〇メートル、四十歳頃が一番背の高い時て一、六八メートルになります、卵子が生れて子供となりお父さんとなりお母さんとなり遂に老人となつて死ぬのてす、小さい子供からズン〱大きくなつて凡そ四十歳頃が一番の大きさになつて、それから又段段と小さくなつて後に死ぬのでございます、此身體の大さは主に脊椎に關係するもので、脊椎の骨が長くなれば脊が高くなり縮めば低くなると云ふのは、骨と骨との間に在る軟いものが發達し又衰へるからなのである、實際に於て人間の身體が大きくなつたり小さく

なつたりするのではない、啻に骨のみならず身體に備つて居る、例へば心臟とか或は腦とか或は胃或は腸或は眼なども、生れてから漸次に大きくなる、五臟六腑などを目方で勘定して見ますと、肝臟は生れた時には六十五ガラムある、中年になると千三百六十四ガラムになる、腦髓は生れた時には三百八十一ガラム、それが大きくなると千四百ガラムになる、併し飯を食つてそれを入れる胃袋は腦が大きくなるだけ左樣に大きくならない、眼などもさうであります、それで前にも申しました通り總て身體の大きくなると云ふことは骨がズン／＼伸びるので、その骨の伸びるのが後に止まる、さうして骨と骨との間に在る軟いものが漸く衰へるので、それが爲に丈も低くなる、衰へて來るに從つて骨なども折れ易い、又筋肉も大變脆くなつて來る、それで、若い時に何か病があつて生活の條件が惡くなりますると營養の不良を起して、先刻栗本さんが御話になつたやうに、例之へば母乳を用ゐなければならぬ場合に無暗に牛乳或は片栗などを飲ますと營養不良となる、營養不良となつて、骨骼が段々惡くなると、佝僂病になる、近頃新聞によつて既に御承知でせうが富山縣に佝僂病者が多く現はれた、是は全く小兒期の營養不良に因つて斯う云ふ病氣に罹るのであります。

其次に男と女とです、男の生理機能――即ち男の生活の條件と女の生活の條件とには違ふ所があります、女は子供を產みますこと、子供を育てること、其他男とは生活の趣を異にして居ります、此等の條件の具合が變りますると種々の病氣が起きて來るのであります

其次が體質です、是は主に遺傳――親から讓られたものであります、それで病氣の原因を研究するに兩親なり或は曾祖父母なりに推及することは非常に役に立つ、此事に就て御話しますれば非常に面倒なものでありますが、極く概略を掻摘んで申上げますれば、胃の病氣を享けるやうな體質、又神經の病氣に罹り易き體質を親から享ける、病氣に因つて各々

違つた體質があるのでありますけれども、世間に一那澤山あつて一番厄介なのは神經質であります、御承知の通り世が文明に趨むく結果として、兩親が酒を飮んだり其他衞生に適はない生活をする、或は非常な勞働をする、或は生存競爭の爲に無理な働作をする、世が開け行くに從つて兩親の體質に變性を起し、神經病に罹り易い、さうでなくつても其子供が神經質となる、神經質の體質と云ふものは何うしても世の進むに從つて多くなる、是は體質の一例として申上げたのであります。

凡そ此等の特別條件に不都合が出來ますと病氣に罹ります、前に御話した普通の條件――或は溫度の關係或は食物の關係、さう云ふ風なものが纏まつて病氣に罹るのでありますから、そこで病氣を豫防するには是だけの條件があつて、其條件が間違つたならば、何う云ふ風にすれば宜いかと云ふ事を心得て置けば宜いのです、これが病氣を豫防する方法の原則でございます。

これから病氣の療法の事に移ります

昔は人間を動物てなかつたやうに申しましたが、今日の所で言へは人間も矢張り一の動物に過ぎない、それで人間といふ動物が此世界に居つて他の動物と共に所謂生存競爭場裡に立つて事を爲すのに非常に便利な事が澤山ある、言ふ迄もない手が二つあつて他の動物と比べて確に勝つて居る、手が二つあると喧嘩をするのに都合が宜い、足が二つあつて歩くといふことも確に便利である、尤も猿の高等な奴になると歩くのがありますけれども、兎に角人間に足が二つ手が二つあると云ふのは隨分便利であります、尚其他に神經が極く慧敏て善く感應する、それから物事を能く覺えて居る、思考することが出來る、自分の思つて居る事を人に語つて他人に知らしむることが出來る、是だけは他の動物に比して便利な事てある、しかし又不便な事もある、先づ人間は身體が非常に小さい、皮膚が非常に軟い、さうして毛が無いから怪我をし易い、他の動物は毛を以て

身體を保護して居る、人間は仕方がないまるで裸體に出來て居る、

それから五官――眼だとか耳だとか鼻だとかの感覺、人間の眼などは光線がなければ何の役にも立たない、他の動物は光線が無くつても平氣なものが多い、鷲などは人間の眼より何十倍の視力を有つて居る、それから耳なども前は動いたのだらうけれども今は動かない、他の動物は耳を自由に動かして音響を能く聽取る、最も鋭敏であります、人間は遠方の音響は更に聽取れない。

次は本能であります、これも犬や猫などの方が人間よりも勝つて居る。

斯う云ふ風に擧げて見ますると、人間に取つて便利な事もあれば又不便な事もある、しかし精神の力がずつと進むで居るために、病氣はどう云ふ事から起きる、其病氣はどう云ふ様にして癒るかと云ふことを知ることが出來る。

已に前回に申し上げた通り、病氣と云ふものは外部よりの刺戟を受けて發生するもので、平生の生活の作用が變るが爲に病氣が起きる、さうすれば此病氣を自然に放置して置いて何うして癒るか、傍て見て居て、自然に治癒する方法を眞似すれば宜いのであります、其概略を御話し致しますると

或物體が皮膚に打付かると、皮膚は非常に軟いから直ぐ傷がつく、身體の中で非常に緻密な細胞の集つて居る腦髓などは一番餘計に怪我をする、例へば高い處から大きな男が落ちるとして、皮膚に傷はしないて、夢中になつて知覺を失ふことがある、それから、組織を切つて仕舞つた場合に、此怪我は打捨つて置いて癒る、待つて居れば切れた組織は繫がる、筋肉でも皮膚でも繫がる、負傷をして縫ふた箇所は漸次筋肉が寄つて來て舊の通りに癒る、少し下等な動物であれば切れたものは持つて行つても癒る、人が手などを切りましても皮膚でも筋肉でも少し位切つても立派に舊の通りに癒る、併し構造の緻密な場所――神經などを切ると何うしても癒らな

い、現今の外科醫は此理を推して治療を施すのてあります。

次に理學的の原因て、例之へば熱の爲に病氣が起る、御承知の通り人間の體温は三十七度五分より昇つても降つても不可ない、若し體温が是より昇れば是を熱病と言ひます、それて人間の身體に熱を有つた場合に之を舊の通りに復すのには體内の水分を蒸發させれば宜いので、醫師が治療するにもこれに依りて汗を出すことを工夫するのてす、さうして熱の發生を尠くする、斯う云ふ風にそれ〳〵自然の現象に鑑みて治療するのでございます、それから理學的の原因の中にも種々ありますけれども、其中に氣壓と云ふものが降つた場合には何う云ふ風になるかと云ふことは、未だ醫學社會に於て研究が十分出來て居らないのてあります、從つて此等に對する療法はまだ曖昧てあります。

次に化學的の物品て毒を釀成する、是は或は毒を飲むとか或は毒草を食べたとかて種々な病氣が起きる、さう云ふやうな場合には毒を消せば宜いのてす、斯う云ふ事は昔から素人がやつて居ります、毒物を食つた場合に大便として排泄するとか、或は水を餘計に飲まして毒物を打消すやうな工夫をする。

中毒にも、自家中毒と申すのがありまして、自分の體内で毒を製造して、自分が其毒に中ることの自家中毒は子供に多い、食物が多う過ぎるとか、食物が惡いとか、或は近頃多くございます牛乳の惡いものを飲ませた場合に、總て食物の不良より腸管の上部、平常の作用に異狀を來して腸加答兒に罹ります、其腸管内に腐敗のやうな作用を起して毒物が出來る、若も其毒物を血液中に注入しましたならば自家中毒症を起して、誰が診ましても腦膜炎と云ふ病氣に似て居る、斯う云ふのは自家中毒てあつて、其源は食物の間違から——自分の食つた物が毒物てあつて其毒に中てられるのであります。

其次には傳染病、激烈なる傳染病の中にはペスト、虎烈剌と云ふのがある、どう云風にして此病氣

が起きるかと申しますと黴菌と云ふものが居つて、身體の中へ入つて毒物をこしらへる、其毒の爲に多くの人が斃れるのであります、しかるに黴菌が身體に入つて來て毒をこしらへ其毒を血液中に注ぐと同時に、又一方には此黴菌に打勝つ毒物を始終血中にこしらへて、恐るべき傳染病を癒すのであります、若も黴菌の毒を能く打消し得ずして――黴菌の毒が強ければ人間が死ぬ、若しその抗毒素が強ければ傳染病が治癒するのである。

例之へば種痘の種を牛から採つて身體に植えますると、さうすると人の身體に抗毒素が出來る、天然痘の毒が入つて來ても種痘の毒に因つて打消すことが出來る、赤痢病でも虎烈剌病でも其他の傳染病に對して同じ理に因つて毒のこしらへ方があります、いま御話した通り黴菌を打消す毒を始終血液中に注いて居つたならば、天然痘其他の傳染病を防ぐことが出來るのであります、其中天然痘に對する種痘は最も著しく効驗のあるもので殆ど百發百中であります、他の傳染病も癒すことが出來ますけれども、時には不結果に了ることがあつて唯今の所ではまだ不十分なのであります、けれども今日實扶的利だけは確に成功して居る、此病氣だけは研究された方法に因つて十分に全治する。

是で病氣を療治する大體の方針がお分りになつたと思ひます、尚此次にモウ一回療治の方法を御話しまして、さうして長くつゞけました疾病の御話を終らうと思ひます。（完）





大家談叢

實扶的利亞と感冒

此篇は醫學博士瀨川昌耆氏の講話の一部にして本會其許諾を得たる前號の續きなり

醫學博士　瀨川昌耆

▲窒扶的利亞と類似の徴候　小兒が感冒を引いたら多くは咽喉を傷めて咳嗽を發するものですが斯く咽喉を害した時は餘程用心しなければならぬのです、近頃は實扶的利亞が散在性に流行して居るから咽喉を傷めて居る小兒などには稍もすると實扶的利亞菌が侵し易いので感冒が原因で實扶的利亞に罹つた小兒は世間に澤山見受けます、窒扶的利亞は近來血精注射療法の爲めに手後れにならぬ内なら危險から救ひ出すことが出來ますけれど中々油斷の出來ぬ恐ろしい病症である、併し感冒に罹つた小兒で一寸素人考へて實扶的利亞ではあるまいかと思ふやうな現象から非常に家族の狼狽する事がある是をお咄し仕て置きませう

▲咽頭の實扶的利亞　之れを説明する順序として實扶的利亞から述べませう、一體此病氣の始めは咽頭に起るのと、夫れから喉頭に起るのとあります、咽頭とは口を開いた奥の突當りの場所で、此處を實扶的利亞菌が侵し始めの徴候は咳嗽は出ません、ケレども大抵は熱が高くて、元氣がない、爾うして食慾も減じる、夫れて此位の徴候では始めの間は親達も實扶的利亞とは決して氣の付かぬのです、併し其内に小兒の容子が次第に平生と異つて來るから「大方感冒でも引いたのだらう」と初めて醫師の許へ連れて往くやうな事になります、此時醫師が診察するとモー咽頭の左右や狹い部分の附近には白い膜が出來て居て、實扶的利亞菌がペタ一面に附着して居るから、之れは實扶的利亞だと診斷を下すと親達も今更の如く驚かれます

▲喉頭の實扶的利亞　次に喉頭（即ち咽頭よりも奥にて此處は口を開いても見えません）から始まるとソロ〱咳嗽が出始めます、爾うして其の咳嗽もコン〱狐でも鳴く如く、聲も嗄れて來るし、泣く時も如何にも皺嗄れた聲を揚げる夫れが段々重症くなると音調が變つて來るし、呼吸するにもヒユー〱と云ふ音が聞えて外他から見ても如何にも困難の樣子です、モッと夫れが烈しくなると息はヒユー〱と急になつて來る上に苦悶の狀態を呈しますが喉頭に起つた實扶的利亞は口を開いては白い膜などは見る事が出來ません、斯く苦悶の狀態に陷つて窒息するのは即ち喉頭狹窄を起すのです、要するに實扶的利亞は窒息を起すのと、其の毒が全身に廻つて心臟痲痺を起すのと此二樣があるので孰れにしても手後れになつては咽喉を切開して應急の手術を施し窒息を免れしめても又血清注射をしても救ふことは出來ない危險の件はれるもので血清注射法が發見されたからとて油斷は出來ません

感冒の用心

▲臀部を寒風に曝すな　寒い時であらうが暑い日であらうが小兒を保育するのに一向無頓着な母親があります、此無頓着と云ふ事が或る程度迄は差支へないことで餘りホイ〱遣つて庇護い過ぎる弊害よりも宜いのですが此寒さに向つて餘り無頓着な仕方は感心致しません、習慣上とは云へ斯ういふ無頓着なことが世間には澤山あるのです、小兒の大小便をやる時に嚴しい寒氣の中にも係はらず椽側へ連れ出し臀部を寒氣に曝して兩便を放出させます、尤も小兒も歩行の出來る頃にでもなれば兎も角も、未だ生後半ヶ年間位は斯ういふ無頓着な保育法は實に贊成が出來ません、デ先づ寒中などは室内の餘り寒くない處へ虎子を置き、夫へ放出させる樣に致し度ものです

▲夜中放尿させる場合　モーッ酷寒中の御注意を申上げます夫れは夜中小兒が眼を覺ました時虎子へ放

尿させる際、小兒は寢衣の儘て、母親が寢床から連れ出します、虎子へ懸つて直に小兒が放尿すればよいが場合によると放尿しさうて居て容易に尿を洩さない、爾うすると母親も中止する事が出來ず「モー放尿か〳〵」と待つて居て其間には小兒を冷して仕舞ひ、感冒を惹起すに至らしむる事がある、故をもつて寒中は夜分小兒を寢床から連れ出す時に豫め綿入れ羽織など準備し置き、手早く夫れを着せて起すやうになさい、其の羽織も火桶へ埋火をして置き夫れへ掛けて暖かになつて居る程の注意をすれば誠に至れり盡せりてあります

▲寒夜共寢の注意　母子同衾の利益は前にも詳しく述べて置いたが、寒い夜などは小兒の身體を毛布て纒包んて、爾うして共寢する事の注意を缺いてはなりません此位注意を嚴重にしても母親と抱いて寢る小兒の間に空隙が出來安く、此間からスー〳〵風が這入つて小兒は隙間風のために感冒を引くことが往々御座います、生後半ケ年間位の小兒なら尚更ら注意しなければなりません、斯る實例は多く世間に見受ける事て未だ之ればかりてはなく、母親が乳房を含ませ乍ら迂濶にも其儘眠りに就いて仕舞うなどは第一哺乳兒時代の初めの頃てあつたら窒息の慘事をも醸さぬとは限らず、第二には此嚴寒の夜には夫れが爲めに母子共に感冒にかゝる事があるから母子同衾するには小兒を充分に毛布てつゝみ、尚母體に接する側よりも其反對の側、即ち母體に接せざる方へは毛布一枚位厚く包んて置くやうに致すがよろしい、斯く注意した上共寢をする事は寒夜是非共心懸けねばならぬ事てあります

感冒及下痢

▲一時性の咽喉狹窄　窒扶的利亞の爲めに音調は變り、ヒユー〳〵言つて息遣ひも困難に苦悶の狀態に陷つたときは既に咽喉狹窄を起して居るが、之れと同じやうな狀態て窒扶的利亞とは全然病症の違ふ病氣があります、此の場合には親達も非常に狼狽して

窒扶的利亞ではあるまいかと既に小兒の生命如何を氣遣ふやうな大騷ぎを呈します「此兒は少し感冒の氣味で居たが晝間は元氣が宜く左程案じる程の事は無かつたに、夜に入つたら急に咳嗽が出て聲はヒユー〳〵跡尻を引くし、咳嗽は狐の鳴くやうにコンコン云つて左も苦しさうに丁度息も絕えん計り、今迄少しも心付かずに居たが窒扶的利亞は此様容體であるさうだから此度恐ろしい窒扶的利亞に懸つたのであらうと」周章狼狽して夜中醫師の許へ使を蒐付けさせる、處で醫師は此容體を聞いて往診する頃には此の兒の病氣は輕快になつて更らに苦悶の容子もない醫師は「如何です御容體は」と尋ねると使をあげました跡で小兒が痰を吐いたら此通ケロ〳〵治つたやうになりました」と親達は答へるやうな場合が此の寒い氣候の時は屢々見受けるのです、一體是れは小兒が一時性の咽喉狹窄を起したので決して窒扶的利亞の爲め咽喉狹窄てはありませんから、此様容體の時は爾う騷がずに親達は心を鎮めてお出でなさい、ソコで斯ういふ病氣は翌日になると昨夜の騷ぎは拭いて取つたやうに治つて大風の吹いた跡のやうなものです

▲下痢と母親の誤解　感冒の注意と共にモ一ツ下痢する事に就いてお咄し仕て置きませう、下痢は多く夏季ある病氣ですが乳汁を飲ませ過ぎ胃腸を害すと小兒の下痢は冬季でも起します、處が下痢の小兒を診察したときは必ず母親への注意として乳汁を平常より充分控目にせねばならぬと申すのです、スルト注意を與へられた母親は折々斯ういふ言を申されます「此通り小兒の身體は疲れて瘦せるものを此上乳汁を控目にしたら何んなに衰弱するであらう、何うか藥斗りで下痢のなほるやうに仕たいものです」と成程御尤らしく聞えるが之れは全く素人考へて、幾ら藥を與へても小兒は益々下痢は烈しくなり、身體の衰弱を醸すのです、故に胃腸を損じて下痢を醸したら必ず先づ乳汁の量を嚴重にお控へなさい、乳汁を控へた爲めに一時は小兒の衰弱することなしと

も限らぬが、病氣は之れて快復します、病氣さへ快復すれば衰弱も自ら恢復いたしますから、母親の往々誤解する此點は特に御心得置きを願ひたいのです

小兒の蟲及び疳

▲蟲封じ疳ほり　引續いてお咄し仕ますのは小兒の蟲及び疳の事て御座います之れは古來より民間に言ひ傳へられて居るので今日ても「蟲が起りましたとか、疳が起りました」と云つて醫師の許へ連れて來る、夫れ故小兒の蟲封じだとか又は疳ほりなど丶云つて、未だ〳〵民間には斯んな事實が盛んに流行して居ます、一體蟲だとか或は疳だとか云ふことは抑も如何なる病症てありませうか

▲蟲疳とは如何なるもの　溫順しい小兒であつたものが急に自烈だして、何んと云つて慰さめても靜止かなかつたり夫れから是迄良く安眠した小兒がドウも落付いて眠らず折々目が醒めては不機嫌がつたり、夫れから急に食事が進んで俄かに大食になるとか、急に食欲が減じて少食になるとか、大食かと思ふと少食になつて俗に云ふ非常な不規則食になつたり、夫れからポキ〳〵爪を噛んて見たり、夫れから鼻へ指を入れて掘つて見たりする、總て小兒に斯んな變つた樣子のあるときは必ず親達は蟲が起つたとか疳が起つたとか云ひ、懇意な人や親同士抔て談合ふとき「何うも此兒は蟲が起つた爲か自烈て困ります」と云ふ事は必ず口癖のやうに言はれる、其他小兒の引つけるのも蟲だとか又は腹を下しても蟲の爲だとか悉く此樣徴候のある時は疳と云ひ蟲と云ふ、爾うして親々は之れを大に恐れて終に蟲封じをするとか左もなくば疳ほりに賴んで疳の蟲を掘つて貰ふ、其の爲め蟲封じや疳ほりが此文明の醫術の行はれて居る間に盛んに流行して居ります、果して蟲封じや疳ほりが効顯のあるものなら兎に角、斯る事柄は全く一種の迷信にして野蠻時代の遺物と云はなければなりません、今其の次第を詳しく述べ、俗間

に言傳へらるゝ疳や蟲は醫學上から見たら如何なる解釋を與へられるものか、此の問題に對して親々に心得となるべき事柄を詳しく說明することに致しませう

▲疳及び蟲の起原　疳と云ふ事は一體何れの時代何れの國から言ひ傳へられたものかと云ふに其の時代は玆に詳にする事は出來ないが、支那には古より五疳と云ふ事を言ひ傳へられてあります、然るに此五疳の說明や一般の解釋を讀んで見ても實に馬鹿氣たことが記してあつて今日から考へたら抱腹絕倒に堪えません、之れは肺疳とか心疳とか脾疳とか云つて、孰れも夫れ〳〵大小の蟲が居て其の蟲が狂つて病を起すのである、故に其蟲さへ鎭靜すれば病氣も快復するし、身體も健康に復すると、斯ういふ考へを起して居たものであるやうです

夜泣き

▲疳の靑筋　小兒にも大人にも疳の筋が額へ出ると云ふ事がありますこれを矢張り疳の蟲の爲めだと思ふ者もあるやうですが之れこそ實に滑稽と云ふの外はない、此徵候は激怒した時とか非常に自烈たときなど額へ靑筋が出るので詰り靜脈の鬱血から起るのです、中にも皮膚の纖薄な蒼白色の小兒には殊に之れが著しいので疳の筋とは謂はれもなき事を云ひ傳へたものである

▲夜泣きに苦しまる　疳、蟲の事から小兒の夜泣きをお咄し仕て置きませう隨分世間の親は夜泣きをされるので困る樣子を見受けます、爲めに種々苦心して夜泣きの治る咒ひをしたり又は賣僧に祈禱をして貰つたりする、ケレど之れは世の親達の心配する程決して案じるに及ばぬ事で醫學上夜泣きと云ふ病氣はないのです、詰り小兒が夜と晝と取り誤まつて夜眠るべきを晝眠り、夫れが爲め夜は眼を覺して頻りに泣き立て乳汁をせがむだり、慰めても中々夫れに應ぜず幾夜となく夜に入れば斯んな風に泣くので、母親は睡眠の不足を感じ身體も疲勞し隨分困難する

ものです

▲夜泣きの癖の付く時　斯く夜と晝と取違へて夜泣きをするのも畢竟小兒の癖から起るもの、健全なる小兒に限らず、虚弱な小兒に限らず夜泣きをするが、健全な小兒は全く晝間眠らせ過ぎるやうな惡い癖を付けたとか又は偶然何かの原因で一夜目醒めて泣いたのが癖となつて是れから毎夜同時刻に泣き出すのです、又虚弱な小兒は夜中氣分の勝れぬので例へば宵の中に乳を飲ませ過ぎて胃腸の落付きの惡いために寢苦しくつて熟睡する事が出來ざる爲め夜と晝と睡眠の時間を誤りて夜泣きをする事になる場合が多いのです

▲夜泣きの矯正法　然らば夜泣きをする小兒の癖は何うして矯正する事が出來やうかと云ふに詰り晝間餘り多く眠らせないやうにして夜眠らすやうにすれば夫れで夜泣きをなほすことが出來るのです、我國では小兒を背負う習慣が未だに改良されないが斯く夜分眠らずに夜泣きなどする小兒は晝間背負つて居ると眠らせまいと思ふても小兒は遂に眠りに就くやうになります、故に晝間背負ふ事は夜泣きなどする小兒には禁物です、要するに夜間安眠しない小兒は成可く午前の中にのみ眠らせて午後は眠らせぬやうにするのが肝要です殊に夕刻眠らすのは夜の安眠に害になりますから若し眠りさうであつたら玩具を見せるなり、又抱いて遣るなり色々氣をまぎらせて眠らせぬやうにすれば夜分は熟眠するものです又夜分は成可く乳を飲ませぬやうにして胃腸の落付きを好くする事も肝要です又寢る前に湯をつかはせるのも、安眠を得せしむる一の方法です此癖を改めさせるには母親が此方法を餘程上手に工夫しないと矯正するに苦しむものです

去れど實行されぬ事はないので私も夜泣きした小兒を此手段で矯正した實驗もあるから夫れてお勸めいたすが尚注意して置くのは夜泣きは病氣でないことゝ御會得あるやうに願ひたい、併し「夜間驚起」と云ふのがある、之れは一種の病氣故次回に此事を説明

しませう

夜間驚起

▲夜間驚起と云ふ病氣　小兒の夜泣きは病氣でないから、親の注意によつて矯正の出來ます事は前に述べた通りである併し「夜間驚起」は全く一種の病氣であるから之れは親の注意ばかりでは癒らない宜しく醫師の意見を聞くとになさい「夜間驚起」と云ふのは夜中寢惚けて急に泣出したり、床の上へ起上がつて騷いで見たり、甚しきに至ると戶外へ飛出さうとしたりする事のある狀態を云ふので隨分斯ういふ小兒の爲めに親の難義するものであります

▲騷々しい遊びは惡い　一體之れは小兒が安眠の出來ない爲て俄に睡中驚き醒め急に騷ぎ出すのであるが此時親が何んと云つて宥めてもナカ〳〵言ふ事を聞かず益々白烈るものです、何うして小兒が斯んな病氣になるかと云ふに多くは晝間騷がして神經を興奮させるから起るので眠ると其の夢抔を見て急に飛び起き、泣いたり、騷いだりするのであります、夫れですから晝間小兒を遊ばせるにも餘程氣を付けなければならぬ事で機嫌よくするから能いわとキャッキャッと騷がして遊ぶのは宜しくないのです、尤も小兒の身體に故障もなく健全であれば快活な遊戲を好むのは當然であるから能く程度を見計つて神經を過度に興奮させぬ樣に仕なければなりません

▲早々醫師に見せよ　此の病氣は恐るべきものや否やと云ふに左して心配になる程のことは無い、左ればとて其儘醫者にも見せず「寢惚けたのだから今に自然癒るだらう」と云つて投捨てゝ置くと段々夫れが募つて寢惚けたり、急に泣出したり、戶外へ飛び出さうとしたりする事の狀態丈は癒つても夫れが爲め他に神經に故障を起さぬとも限りません、「夜間驚起」は恐るべき病氣でない代りには醫者の投藥によつて容易く治療し得られるものであるから、病氣の募らぬ内に早く醫師にお見せなさい

＊　＊　＊　＊

小兒の泣く事

▲泣く兒と地頭には勝てぬ　小兒は母の胎内を出れば直ぐに初聲を擧げて泣出します初生兒時代、哺乳兒時代、幼稚兒時代は最も多く泣く時代である事は何人も御承知てありませう扨小兒の泣くと云ふ事に就ては實に親の精神を痛めるもので病氣てゞもあるのか、身體に故障てもあるのか更に譯が分らず究して言語も發する事の出來ぬ哺乳兒時代から幼稚兒時代の初め頃迄は何うしても泣くのだから此位氣を揉ひことはない諺にも「泣く兒と地頭には勝たれぬ」と云ふ程てすが、泣く兒の處置に對して親は如何なる取扱ひをしたら宜からうかと夫れをお咄し仕て置きませう

▲泣く事の研究　小兒に泣かれる程困る事は有りませんが、小兒は必ず泣く可き筈のものですから少し位泣くのは一向差支へありません、まだ發語の出來ぬ小兒時代にあつては、餓を訴ふるにも泣く胸苦しいにも、腹の痛いにも皮膚の爛れて痛いにも總て泣いて之れを告げ知らせるのであります、併し生後八九ケ月以上になつて音響を聞分けるとか、母親の顔が見分けられるやうになつて來ると追々感情に任かせて泣く事を覺えて自分の欲しいと思ふ物を與へぬと泣いて甘へるやうになる、一ケ年以上則ち哺乳兒時代を經過して後は自分の意を滿さんとする我儘の惡い癖から多く泣くのであります、生後泣く事の徑路を考へて見ると餘程妙なもので親逹は養育上からも教育上からも小兒の泣く事に就いて、充分研究して置くべき必要があります

▲不贊成なる事共　近頃家庭の讀物とすべき書物が發行されますが中に大分育兒の事も見えます、デ小兒の泣く事に就いては夫々意見を書いてあるやうてすが私の見ました中に斯んな意味て記してある事が御座いました、乳汁も充分飲ませて飢くないやうにしてあるし襁褓も濕れて居らぬ上に針のやうな危險なものが襦袢や被服に刺つても居らず夫れてオイ

〳〵と泣くのは小兒の我儘で惡い癖から起るのであるから幾ら泣いても自分から泣き止む迄は母親は決して構はぬ方が宜い、成るべくなら次の間へでも退いて居て泣く兒の側へ寄り付かぬ方が宜い、泣くからとて賺したり乳汁を與へたりしないで一切構はないでお置きなさいと」云ふやうな事が見えましたが、乳汁も充分飲ませて飢くないやうにしてあると書いてあるのを見ると之れは大方は哺乳兒時代の小兒の泣く事に就いた注意らしく見えます、併し私は哺乳兒時代の小兒の泣く時斯う云ふ取扱ひては感服致しません、小兒の泣く問題に就いて私の意見を申上げれば先づ斯うて御座います

▲時代と泣く事の取扱方　小兒の泣く時は時代によつて親の取扱ひを違へなければなりません之れが第一に必要と思ひます、哺乳兒時代即ち生後滿一ケ年迄の間の小兒が泣く場合は母親が慈愛の心を籠めて充分慰藉して遣る方が能いのです、授乳すべき時刻で無ければ泣いたからとて矢鱈に乳を含ませるには及ばぬが何か他の手段を講じて泣き止むやうにさせて遣らなければなりません、ナゼならば此時代の小兒は爾う甘へるやうな惡い癖を知つて居る譯でないから賺して遣つても慰さめて遣つても泣き止まぬやうなら必ず體内に故障でもあつて、親達には分らないでも腹が痛いとか胸が痛いとか云ふやうな事が有るかも知れません、夫れ故餘り烈しく泣くやうなら醫者に相談しなければならぬのです、然るに泣き止む迄構い付けずに置くと云ふは哺乳兒時代の小兒を取扱ふ良法に背いたものと云はなければなりません



女は男とドゥ違ふか　T. M.

▲凡そ世の中に在りと有らゆるものは、動物界植物界を通じて、物には必ず男女の兩性が分ッて居ります元より人間は一見したるのみて、男子と女子との區別は判然致しますが、動物などに至るとなか

なか容易に區別の分らぬものが多く有ります。譬に動物に於て分らぬばかりでなくして甚だしいのは、往時は、人間と動物との辨別が判然せぬと云ふやうな事を申した時代が有りました、往古希臘に於て、彼の有名なる博物學者のヒポクラーテスと云ふ人の言葉でも婦人は完全なる人間ではない、不完全なる人間であるといふて、即ち婦人をば半人間だといつて居ッた。ソレはドウ云ふ理由であるかと云ふに、婦人は左右の手を同樣に利かせる事が出來ないと云ふ、又婦人の生殖器は男子と違ッて體の内部に附着して居る又男子は温を發起すれど婦人は寒に逢てその作用をせぬなどといふ樣な理屈を並べて、婦人は動物界の者に近寄て居ると言つて居ッた是等は素より取るに足らない理屈で…其外まだ色々の理屈を立てゝ男女のからだの區別に就て、喧しく言ッた人が有りましたが然し漸々世の中の開明に進むに從て、解剖學生理學の上から調べますると、人間と動物との限界は明かに立ち夫れのみならず人間には一種「人者の美」といふものが有る、人間の美は所謂人間の特有であッて、外のものには到底習ふ事が出來ないので有ります。

●人間と精神

▲其れはさて措き人間には必ず精神と云ふものを備へて居ります此の精神の作用は元來腦髓作用の連合に他ならぬことてありますが往時猶ほいまだ精神學を哲學者が講釋致して居りました時分には精神の作用と腦髓の作用とは全く關係の無いもので腦は只精神作用の介助を爲すのみのことにて精神は只一定時の間丈腦髓の中に逗留して居るのみの事と考へ、精神即ち魂魄と腦髓とは全く別のものて有ると思ふて居りました。而して其魂が男と女とは違ッて居ッて、男の魂が宿れば男子が出き、女の魂が宿れば女子が出ると言ッて居ッた、即ち人間に男女の別あるは魂の種類に因るのであると申して居りました。併し是れも近來學理上の成績に因りますると、決してサウてないといふことてござります。

●男と女と考慮

▲ソコでまた考慮と云ふ事に至ると、男子の考慮と御婦人の考慮とには各異なる所が有りますそれは然らばドンな所に違ひが有るかと云ふには凡そ人々の考慮には自からその深さとその廣さといふとがある即ちそれを男子と女子とに比較して見まするど、どうしても男子の考慮の方が深くして廣い。ソレに反して御婦人の考慮は狹くして淺い。ソレのみならず男子の考慮は緻密で條理が立ち能く連綴して居るが、御婦人方の考慮は左程緻密と云ふ所に到らず、而も男子程に整然として連綴して往かないやうに考へられます。斯くの如く御婦人と男子を比べると、どちらも同じと云ふ事は出來ない上に、各多少の優劣が有ります、併しその代り感情といふとの點に至ると、男子よりも御婦人がたの方が餘程勝ッて居るやうに見える、則ち前とは全く反對であります。

●男女と教育の關係

▲ソレから男子と女子との異なるといふ事は、前申ます通り、解剖學上及び生理學上の現象に基因するとは今更らいふ迄のともない事ですがこの他にも亦た其區別を幾分か助けるものが有ります、それは何かといふに。即ち教育であります、男女幼年よりの教育の結果が大に男女の性質の異なる事を助けて居る何故かと云ふに男子にせよ女子にせよ各々その幼けなき時は唯一寸見たばかりでは男の兒やら女の兒やら、殆ど男女の別が判然せぬ樣でありますが、漸々成長するに從て身體のみならず、精神の作用までに大變に相違して參ります。則ち是は天然でなくつて却て人工と申しても宜しいのでせうか男と女とは教育の程度が全く、違ッて居るのですから、解剖學生理學の學理如何はさて措き、唯其事のみにても自然と多少は異ッて往く譯であります。これは單り學校に於てのみならず、亦た家庭の上に在ても女子の教育と男子の教育とは全くその方向を異にして居るものて有ります

●女の腦髓と男の腦髓

▲實際其考慮を蓄へて置く腦髓を見ますると、矢張り其區別は一見して明かて有ります。往時有名の解剖學者のヒルトルやフッシユケやバルシヤッブやブローカーなどといふ大先生達が調べて見られましたに「女子の腦は男子の腦より數「オンス」丈輕しと言はれました、處てダルウヰンといふ人の言れましたには「イヤ女子とても男子に劣けてばかりは居らぬ、婦人とても幼年の時から、男子の樣に腦を働かせて居ッたならば、矢張り男子の樣に發育して必ず男子に劣けぬ樣になるてあらう」といふことた言ひました。

●御婦人の頭はかりてない

▲御婦人は頭のみならずからだの大きさも重さも男子には及ばない……何だか男ばかりゑらい樣なことを申して恐縮ですが……美術家なども既に昔から其事を考へて居ッて、人間の身體を割り出すにも、女子の全身は七頭半の割合で男子の全身は八頭の割合としてある。サウ云ふ樣に、美術家の標準も男子と女子とは違ッて居る。言ふまても有りませぬけれども、御婦人の身體と男子の身體とは鳥渡見たのみて分る

●御婦人の體格はドコとなく

▲總體大變に優くッて、都て身體の周圍にはむつくりと圓みが附いて居る、頭は圓くッて毛髮が大變に濃くて長く、顏は幾分か小さく、鼻は細く小さく口元じゆんじやうにて愛らしく眼は幾分か鼻に寄り額は男子に比すれば平たく顎は男子の如く出て居らぬ、首も男子より細く長く喉佛など突起せず、胸には大きな乳房があり男子の樣には廣からず肩もなぞへに圓くなりそれから胸と腹との長さを比較して見ると、胸の方が短くして腹の方が長い。それから美術家なども申して居りますが御婦人の御臍は男子のよりも上の方に附いて居ります。

●柳腰は男のこと

▲その他男子は肩巾が廣くて腰巾が狹いが、御婦人は反對に肩巾が狹くて腰の巾が廣い能く昔から柳腰

とか細腰とかいふことを美人の形容詞に用ゐますが、私はあの詞は婦人の形容に用ゐるよりは、寧ろ男子に附けた方が大に適當であらうと考へます、男は肩巾が廣く腰が狹いから、恰も楔の樣な形で、婦人はソレと反對て、丁度それを逆さにしたやうな形になつて居る。ソレのみならず外にも男子と違ッた所が澤山有ります。

●特種なる男女機能の差違

▲婦人は男と違ひ胸で呼吸をなし、男子は腹でする、婦人の食物を取る事は、男子より大變に少ない、ソレにも拘らず饑や、渇に堪える事は男子よりも强い。婦人の心臟は、男子のよりも狹く厚さも薄くして小さい。併し血液を製出へる力は男子より大きい。且つ出血に堪ゑやすく又血を失ッても之を償ふとが餘程速かてあります。次に脈搏も、御婦人の脈搏は男子より細かくして多い、是れは婦人の知覺は大抵過敏てありますから直に興奮し易くてそれて數が多くなるのてあるかも知れない、又肺の容積と肝臟の容積とを比較して見ると、男は肺臟の方が肝臟より廣いが、婦人は肺臟より肝臟の方が廣い

●女はドコ迄も受働的

▲一寸身體の構造の上、發育の上又作用の上から申しましても御婦人がたと男子とには前に申す通りの差異優劣が有ります。先づ斯う云ふやうな所から考へて見ても、御婦人は男子には及ばぬ點がどうも多い。其工合を見ても婦人と云ふものは、男子に對しては常に受身の地位に立て働いて居るやうな有樣て、男子の方は都て働きがけにやッて居る。實に男子は解剖的生理的元働的の生活を營んて居りますが婦人は之に反して何れも受働的の生活に止まつて居るもので有るのでござります

●女の三大役

▲御婦人には一生の間に過世免かるゝことの出來ない定まッた三ッの現象が有ります。此三大現象卽ち三ッの大役は御婦人の身に取て大變に必要のとてありまして、此三ッの現象に何か異常の事が起れば、

直にそれが病となッて顯はれるものて有り升、それ故此現象に就ては餘程注意をしないと啻に身體の健康を害するばかりでなく、甚だしきは病を起し、時としては生命にまでも危險を及ぼすことが御座います此の三ッの現象とは何で有るかと申まするに即ち第一は月經、第二は姙娠、及び分娩、それから第三は月經閉收の三ッで有ります

●御婦人一生の經過

▲以上三ッの現象の一ッ〱は丁度また御婦人一生の經過即ち生涯の生活道中の境になッて居る全體御婦人の一生の間の經過を分けて見ますると第一期、第二期、第三期、第四期といふ樣に四ッの期に分るとが出來る婦人が産れてから月經が始まる迄の間の時期を第一期と致します此の時期は丁度女兒が漸々成長して一人前の女子になるの準備を爲すの時期でありますから之を一名また準備の期と申します。茲て終に月經が始まります月經に次いて、姙娠分娩迄の間を第二期と申し一名之を成熟の期と言ます月經が附てから猶ほ追々と成熟して行くの時で有ます、全然成熟した所で今度は第三期即ち生産期となる此時より新らしい者をどん〱と産出するので有ります。これから閉收則ち月經が閉止する時が來ます此時よりを第四期と致します、これから先きは死ぬまての間ですからドの位ゐといつて豫め年月を定める事は出來ませぬが、漸々萎縮して往く期で御座いますから、此時を退縮期と云ひます

●女は男より成熟が早い

▲生れてから月經の來る時までは平均十四年間程あります。……併し是れは平均の數でございますから、季候或は土地人情風俗に因て必ず一樣には參りませぬ……準備の期と云ふは前申ました通り御婦人が生れた時から春氣發動期までを云ふ、此時までは女兒と男兒とには左程外に現はれるほどの相違はない殊に一歲未滿の小兒であると能く視ても男と女との見分けが附かぬ位ゐで有る併しながら第一期の末に近寄るに從て男女の境が著しく附いて來る。

ドウ云ふ譯であるかと云ふに、此は年を重ねるに從て身體の工合も精神の作用も違ッて來る、幼い中は男も女も同じ樣であるが然し女の兒は智慧の附き方が早く第一期の後半になつて來るに從て、女兒の方は精神の發育が進んで來る、尤もこれは絕へずこういふ樣に續く譯ではない只一定の時までゞ有ッて、或る場合に止まッて仕舞う、そして、其後に至ると、男子の方が漸々進んで往くやうな傾向が有ります。一寸しても婦人が十七八位いの年齡に達すると、其容子は宛然春に逢たる櫻花の如く身體の發育も完全し精神の作用も成熟して居ります。併しながら其時分の男子の容子は大にそれと異りて子供に免がれぬ幼な氣が殘ッて居る女の方はこれで止てしまッて男の方はこれから猶生長して行ます。サウ云ふ樣な工合て、第一期は成熟して往からと云ふ準備の期です、其の準備が整ふと玆に全く成熟し、始めて月經と云ふことが現はれる。

●月經が來れば大人となる

▲生後第一の緊要なる現象即ち月經は前にもチヨツト申した通り土地、人情、季候風俗等に因て其の來るのに差違が有ます所に因ると、八歲位ゐで月經の現はれる事も有りますが、日本では大槪十三か、十四か、十五、先づ平均十四歲彌位ゐの時である、此時を或る人は「天然の春」或は「喜悅の時期」などゝ言ました是れから成熟期にならうと云ふ初めて有ります則ちその兆候として生殖器から血液の分泌が現はれるので、有ります。併し此期にならぬ前、極く小さい時分に於て、殆ど成熟期と同じ樣に分泌液を出す事があるが、是れは決して不思議の事では無い生理上正に有るべき事です、言ひ換へて見ますれば、是は則ち早く熟したのです……先づ是等は例外てすが……ソレは兎も角此(成熟期)時になり月經の現はれるのは、能く準備が整ふたのでございます。人間のからだの生殖器の發育といふものは此時に至るまでは恰も睡眠場裡に在つたもの丶樣てしたが此時期至りて初て醒覺し月經となつて現はれて來

たので有ります、月經が付いて來ると、婦人は此時を以て、既にその身體の内に一の生活物を受納めてそれを發育させるやうな作用をしても宜いやうになつたのです、則ち姙娠を爲し分娩をしても宜いやうになつたので有ります。

●身體の工合がかわる

▲月經が付くとからだの工合も今までと一變して參ッてからだの諸機械は速に發達し各部の組織は鞏固となり、からだは大變に圓滿し乳房はズット張ッて來る、毛の生へべき所には、毛が生へて來ますなどそれは〳〵諸所の發育は非常に早くなつて來る者です、此の月經の一來一往は御婦人の生活には最も必要なる機能でありまして若し一朝ソコに異常が有るとでも有ましやうか忽ち健康を害し、或は病氣を惹起すといふ樣なとが起ッて來るので有ります。尤も重る病氣をやッた後で月經の變調を來すとも往々有るもので有ります。

●月經が來た許で姙娠はわるい

▲前に言ふ如く、組織が固くからだの機械が完全して來たならば則ち發育が分充て養營の良い人であつたならば、婦人は最早此時から姙娠する事が出來ると見做して可い者で有ります併し月經の付いた時から姙娠するまでには、一定の時期があるもので有ッて月經が附た其時に直ぐ姙娠をすると、恰も未だ十分に熟しきらないものが、姙娠したやうな者であるからその、結果は不充分で有ります。月經より分娩までは、坂で申せば登ッて行くやうなもので、此時分則ち月經初發の時分まではまだなか〳〵充分に成熟しては居らない。尚ほ一層成熟して十分の姙娠分娩の出來るやうになるまでには猶ほ一定の時が必要である其時とは、即ち平均二十歲位ゐの年齡に達するの時である。併しこれも其人の發育と其國の風俗等に因て違ひますから、一定する事は出來ませぬ。そこで先づ平均十四歲に月經が現はれて、姙娠分娩を二十歲とすれば、則ち其間六ケ年だけ成熟して來たのであります。

●餘り早くお嫁に行くと病氣が出る

▲蓋し日常吾々婦人科醫の目擊する患者にして或は局所病を有せるとか或は一般症の異常に罹れるとかいふ者の内の或る一部分は其原因實に早婚に在るのがある樣で有ります。充分に成熟しない中に結婚して、ソレが爲めに恢復す事も出來ない樣な狀體に陷るものが往々有ります。實以て斯う云ふ事は吾人が御婦人方に向つて切に御注意する所のことで有ります。殊に世間女子を有せる母親たる人に對して深く其の不心得を誡めざる可らざるの點で有ります。

●姙娠するとからだが違つて來る

▲偖て充分に成熟し結婚しそこで受胎即ち姙娠といふ事になります即ち第二の緊要なる現象が來た譯にて此時より生産の期が始まるのであります此時に至ツて姙娠するとからだの、狀態は全く異なつて來るので有りまして當に姙娠して局所が其容積を增すばかりでなく、一體に身體の容子が、ちがツて來る乳なども大變に大きくなつて下の方に垂れて來る。又各所の皮膚にも色素の沈着が起つて來る。ソレばかりでなく神經系統にも多少の變調を來すものにて時には著しき病的變狀を呈すよふの事もあります即ち神經の知覺に變狀を來すが故に輕きは輕度の衝動より重きは以て危篤の強直性若くは間代性の痙攣を起し我邦には餘り有ませぬが舞踏病や癲癇などをも發するとが有ます夫のみならず精神症狀にまで變調を來し或は物の擇り嫌ひをしたり、或はしきりに氣が浮き立たり或は鬱憂症を起すとかいふよふないろ／＼の異た事が發します、若しサウ云ふ樣な大なる變狀が起ツて來ると、無論子宮にも異狀を起し胎兒の發育、乳汁の分泌にも障碍を起して參る樣の事も有ります健康なる御婦人の生活は爾後殆んど受胎—姙娠—分娩—受乳—月經といふ樣に一定時の間同じ機能を繰返し／＼行ものにて四十五六歳迄といふものは其の儘に經過するもので有ります。

●月經の時期と閉止

▲前に度々述ました通り月經の初て來る時を平均十

四五歳と致しますと其後月經の來往する間は平均大略三十年間と致してありますから丁度四十四五歳に至て月經閉收といふ順になります、則ち是より退縮の時期が始まり第四期の時代となつて參ります此の時期は蓋し生殖器が萎縮の變化を受け機能不隨となりましたる結果に他ならず、それ故に此の時に當ては生殖器は都て萎縮し組織は變じて硬くなり血行なども緩漫となり月經も排卵機も共に休止して仕舞ひ殆んど男と同じ樣な工合に爲ります

●男の生殖機能は非常に永い

▲斯いふ風に婦人の一生は四期に分れて居て此の關係は最も注目すべき價値のある者で有ります、即ち男子と女子との生活の差異の上に於て極めて奇異なる感情を惹起さしむるもので有ます。今申す通り婦人は四十四五年位て月經か止る即ち生殖機能が無なつて仕舞ふ此の年齢に達すると、婦人は殆ど不用物になつて來る即ち世間に用ゐられぬからだとなつたと思ふても宜しうございます。併し男子の方であれは、ドウかと云ふに男子は四十五歳位ゐの年齢は未だなか〳〵盛の年紀で有ッて、どん〳〵世の中に出て種々の仕事もしなければなりませぬ、又其生殖機能もどうしてなか〳〵盛の時で有りまして隨分此の位の年齢に及んで始めて伉儷を擇ぶといふ樣なとは日常能く吾々の耳目に觸るゝ處であります實に同じ人間で有りながら男女の間に斯くも相違の有るといふは造化の依怙も餘りといへば聞えぬ仕打といつても宜い位ゐて有ります。元來男子の生殖機能はなかなか盛なものであつて其身體の健康なる限りは決して永く休止するものに非らずして時には齡百歳に垂んとする白髮の老翁にして尙ほ子を生ずる事は餘り稀でも無いといふような有樣てあります

●年とりて月經が止むと男になる

▲女子の生殖機能が閉止する時は從て生理的及病理的變化ヶ來すものにて先づ月經が止むと女子といふ性質が變じて漸々男子に似寄ッて往くもので有ります。實際其證候はからだの上に於ても已に現はれ

て來ます例えば今まで生えたとのない髭がだん〳〵生えて來るとか、細かりし聲もだん〳〵太くなるとか、ソレのみならず精神の發動も一變して柔和なりし人も荒々しくなるとか、酒を飲まなかつたものまてが酒が好きになるとか、或は是れまで精神の爽快なりし人が憂悒の症を起すとか云ふ樣になる者でありますホーキン氏の調査に據りますると此の性の關係は女子精神病の源因に大なる影響を與ふる樣に思はれます

●婦人の病氣と時期

▲一體前申す通り月經や分娩などは實に大切なる作用でありますが若し此等の作用に著しく澁滯する事が有りますとか或は臟器發育不全若くは病的變化の爲めに此の作用に障碍を生じますとか或は又外來の障碍を受ける樣のとがありますと即ちそれが直樣疾病となりて現出するもので有ます。ソレ故病氣も時期に因て、その起るのに違ひが有るのでありま す。丁度之を四季に譬へて申しまするど恰も春は梅が咲き又は櫻が綻び、秋に到れば萩、桔梗、薄や菊の類が咲き出ると言ふやうに婦人の病も大略は時期に從て自然と種類が違ひます且つその疾病と申すも元來或る一定の時期に於て或る一定の障碍に由て起りますもの故にその疾病は各々其ものゝ機能の性質をば自然と有し居るもので有ます。

●準備期の病ひ

▲其故に先づ第一期から申述ましやうなれば此期は即ち準備の期て生出た時から月經初發までの間の時てありますから、男兒も女兒も殆ど狀態が同じて有りまして、女兒に限つて此れと云ふ病は無いと云て宜しい。前に申せし如く、成熟期に先立つて早く熟すのは、生理的の作用で之を疾病とは見做すとは出來ませぬ又彼の小兒時に起りまする生殖器よりの分泌液の如きも直に之を其の病の證候とするとは出來ませぬ何故ならばこれは却て其の隣にある膀胱だとか又は直腸などに病が有つてそれから繼發症となつてこういふ症を起すとがあるのです大抵女兒に於

ける白帶下の如きは隣器疾患の刺衝に由て生ずるとが多いもので有りますから其の源を癒したならば、今まで現はれて居ッた生殖器よりの分泌液も止まり、直ぐに癒ッて仕舞ふ樣のとが有ります先づ概して言ふと第一期に於ては大した病はありません

●成熟期の病ひ

▲この第二期即ち成熟の期に起るは、何かと云ふに此時は丁度、月經の初まる時故、月經障碍症即ち月經不調とか、月經過多とか、或は月經が少ないとか、無とか、或は又變ッた下り物がするとか云ふやうな病が多い。ソレはドンな風な事から起ッて來るかと云ふに、子宮の位置が變ッて居るとか、或は欣衝性の病を起すとかいふやうなとが元となるのが一番多い則ち是が爲に血行に異狀を起し遂に各種の疾患を發するもので有ます尤も此等の障碍症は決して單に此の時期にのみ限りて來るといふ譯ではありません後の時期に於ても亦た必ず現出するもので有ます殊に分娩後産褥の攝生が充分で無いと産後それが爲に子宮の位置が變ッて遂に不妊症即ち妊娠することが出來ない樣な病に陥る事がありまする

●神經障碍症

▲是に次て此時期に來る疾病は神經障碍症で御座ります是れは、或は單純に來るともありますし、或は又た他の生殖器の合併症となつて來るとも有ますし又た或は反射的症候となつて來る事もあります。夫故神經痛だとかヒーステリーだとか又た日本には幸にして餘り見受ませぬが營養がわるく、體質虚弱の人には舞蹈病などゝいふ病が起り又た癲癇の素因ある者なども月經の障碍と共に之を起します。其他亦た血行器にも病を起すとがあります而して貧血症だとか心悸亢進だとか又眞の心臓病などを發し時には代償的月經と申して毎月の月經の代りに吐血したり鼻血を出したりなどするとが往々御座ります以上が先づ第二期に起る病であります。

●受胎時期以降の病ひ

▲又第三期になつて起ッて來る病はどんなもので有

るかと申まするに此時は即ち受胎の時期以降月經閉收期迄の間で有ますから生殖器の機能も丁度之に適應して最も盛んであつて、月經は毎月循環來往して居つて頻に受胎の機會を待つもの丶如き有樣でります而して此の時に於ては獨り生殖器の機能の旺盛なるのみならず全身の機能亦た甚だ活潑の勢を呈するもので有ります夫故に此時期に於ては男女の情慾恰も火の如く其の都度生殖器には非常の充血を致し從て排卵機なども益々盛となり遂に受胎し易き機の都合と爲りますソコで先づ受胎といふ事になりますると子宮は漸々膨大して遂に數十倍の大さと變じ終に分娩といふとになつて子供が生まれる、子供が生れると產の時に、產の道に傷が出來まして、其の傷が病の源となることがある。

●御產のために起る病氣

▲御產をして起る傷は何れの所に出來るかと云ふに先第一產の時には產道が非常の擴張を受けますからして其の道の途中にも出來まするし又後の方には直傷があり前の方へは膀胱が有りますからして夫等へも影響を及ぼすとが有り又モツト多いのは產道の出口の所です此處には大小いづれか傷が出來時に由ると不注意不攝生の爲此等の傷が原因となつて恐るべき危險の病症を惹起すとが御座ります故に產後といふものは極て大切で有まして能く／＼要心せねばなりませぬ第三期には此の產といふとが有るから從て病の數も殖へて來ます

●御產をすると身體がかわる

▲夫れのみならず產後には病的でなしに生理的にも變化が起ります即ち婦人は一度分娩を營むとからだの工合がスツカリ違つて仕舞て最早以前の形狀に復故するとは出來ませぬ稀には一向に分らぬ人も有りますが多くは一遍妊娠すると妊娠しない前のからだとは、全く違ツて仕舞ツて、例へば乳は以前は碗を伏せたやうな形ちで居ツたのが、一度妊娠すると、ソレが遲緩して柔らかく垂れ下ツて來るとか、又腹部は柔らかくブク／＼として來るとか、皮膚には色

素の沈着が現れて、來まして顏などに雀斑が出來ますとか又他の病でも起りますか、皮膚には破れた樣な形の小さな瘢痕が出來て來ます。無論生殖器には著しき變化を起して參ります。ソレが或人種に由りますと非常に著しく妊娠前と妊娠後とはまるで姿が違つて、大變妙な形ちになります。

●第三期は病氣の多い時期

▲此の時期は御婦人の盛りの時とも稱すべき時で御座りまして此の時に起りまする疾病は從てその影響を婦人の身體に及ぼすとは大なるもので御座ります都て此の期に起りまする病症は種々ありますけれども同じく子宮の位置の變異などが多く又多少慢性の焮衝などが多ふ御座ります產後の養生が充分でなく爲に是等の症を來たすものと考へます殊に此時期は前の時期に比較しますと生殖器の使用繁く則ちその過度の作用及損傷的患害といふものが時によりますと一の原となつて各種の腫瘍を生じます例えば筋腫ですとかポリープですとかいふ樣な瘤が出來ます又た最も多いのは出血の症で有ます此は色々のことから起りますがもし之に罹ると大に貧血の狀を呈し時には之が爲に危險に陷る樣のこともありまする左程までになくとも大いに健康を害し虛弱となるもので有ますそれから漸々年取りて四十年以上位になると癌といふ病などを發することが有ます癌に罹ると營養大に衰へ殆んと復た救ふ可らざるの境界に陷ります是等の腫瘍の發生しまするのは素因のあることがあり遺傳のあることがあり又營養不良に因ることがありますが最も與て力あるのは產殊に頻回の出產にあるものて御座ります

此時期には此他また卵巢病の發することが有ます此病は例の卵巢の瘤にて或は卵巢嚢腫とか或は肉腫とか或は纖維腫とかいふ樣のもので有ます又そのほか子宮の出血とか月經の多いとか子宮炎とか其の近傍の結締織炎とか卵巢炎とかいふ樣な病症も多く又た神經性の人であるとヒーステリーを起すのが殊に盛てあります

●月經があがると精神狀態もかわる

▲次に第四期即ち月經が閉止する時になると生殖器は萎縮して仕舞つて其の作用は殆んどなくなつて仕舞ふもの故此部に病の起るとは餘程少なくなつて來ますが然し之に反して此度は全身の病が多くなつて婦人特有の病といふものは大に少ない全身症に就ては一々は申しませぬが先づ婦人は月經があがると身體の工合が變ると同時に精神の狀態が餘程變るものにて人に由り色々てすが或ひは大へんに氣が鬱ゐで仕舞ふ人も有りますが又或る人は氣が荒くなるとか、酒を飮むとか云ふ樣な事を起して參ります。併しながら此月經閉收時期は昔は死亡數が多いと云ふて恐れましたが決して死亡數は多い事は無い、又一體からいふと病も決してソンナに澤山の事は無いのて有ります。隨分發生が宜しいと八十までも百までも又百以上までも無病息災に長壽を保つ人も御座ります。

●恙蟲病の話

新潟秋田兩縣下に年々流行する恙蟲病者は緒方博士の研究中にて注射療法を發見せられたりといふ今其談を得て左に掲ぐ

▲毒蟲の巢窟　恙蟲病は支那の古書に山中水間に生ずる一種の小蟲の刺傷によりて發熱皮疹を呈する疾病なりとの說あり本邦には古來新潟秋田の二縣下に於ける河川の一定地域に年々六月より十月に至り發生する風土病にして矢張り小蟲(恙蟲)の刺螫に原因すると唱へ新潟縣下の信濃川阿賀野川魚野川并に秋田縣下の雄物川皆瀨川西馬音內川沿岸一定域は實に該有毒小蟲の巢窟なりと云ふ

▲毒のある島　恙蟲病(秋田縣下にて毛蟲病)患者は其發熱病所謂有毒地と稱する河岸若くは島嶼に赴きたるもの多しとす此有毒地は洪水氾濫及び水流變更に伴ひ時々移ることあり阿賀野川に沿ひたる安田村附近に於ては數箇所の有毒地あり其の內最も廣く

して濃毒地と稱せらるゝ青島の如きは其の面積約五十町歩に及ぶ有毒地には茅艾及楊等の草木甚だ繁茂せり其地の無税なるのみならず肥料を要せずして而かも農作物の收穫多大なるを以て憐むべき農民は初夏の候未だ恙蟲に螫るゝ害なしとして耕作し又は牛馬の秣を刈取る爲めに其の地に赴くなり若し一村に初めて恙蟲患者の發生を見るに至らんか忽ち有毒地に行くもの無きに至れど此時は已に蟲に螫されて潛伏期中にあるもの少からざれば他の傳染病と同樣初發患者に次ぎて續々發病するものあるが如し又有毒地に行かずして只該地より持參したる植物に觸れ例之秣草を牛馬に與へて病に罹る老人兒童も少からず

▲原蟲の存在　余等（緒方博士石原醫學士）は夏期に彼の青島なる有毒地の草木を採取せしめ蟲眼鏡を以て之れを檢査したるに殊に艾には多數なる蝨蟲棲息し運動するあるを見る其の蝨蟲を採取し顯微鏡標本を製し之れを檢査したるに後に記する所の恙蟲病原蟲は形體染色等一致する原蟲の存在するを認め且其の蝨蟲より該原蟲の純培養を得たり

▲狹蟲赤蟲又有毒地又は其他にて蝨蟲にさゝれたるときは其の螫口部に一種固有の刺痛（イライラ）を感じて其の部より針尖を以て蝨蟲を除き得ることあり然れども其の際蝨蟲に螫されたるとを知らずして後に至り病毒進入部たる螫口部を見出すことあり村民は螫すものと知る蝨蟲を狹蟲又は赤蟲と唱へて之れは害なしと思ひ眞の恙蟲は之れを見ることを得ず且つ左迄螫されたるとを知らずして有毒なりと唱ふるも恐らくは狹蟲赤蟲及び恙蟲も同一の蝨蟲なるが如し是れ彼の螫されたりと知りて狹蟲及び赤蟲を目擊したる場合に於ても亦屢其の螫口部より病毒の進入したる例少からざればなり

▲恙蟲患者の病狀　は蝨蟲に螫されたる後四五日乃至十一二日にして身神不快頭痛食機不振倦怠惡寒發熱等を來し其の際蝨蟲の螫口部に褐色又は黒色の痂皮を有する小濃胞を生じ其の周圍は少しく腫赤

色を帶び恰も癩瘡の如き觀を呈す此の螯口部に接近する淋巴腺も亦多少腫脹し之を壓すれば疼痛あり熱度は日を經るに從ひ上昇し其の熱の模樣は恰も腸窒扶斯に於ける熱の模樣に酷似す發病後三四日を經れば全身に痳疹又は丘疹樣の發疹を生じ熱度高くなり譫語等をなし腎臓炎を併發するもの少からずして腸窒扶斯患者より其の死も多しとす

▲恙蟲患者數　毎年不同なりと雖も新潟縣下のみにて一年間三四百名より五六百名に至る其の平均死亡數は約患者の三分の一なるが如し

▲恙蟲とは何か　恙蟲病に就きては明治十二年にベルツ博士の研究あり氏は之を日本洪水熱病と命名し田中醫學士の明治二十六年餘の指導の下に毛蝨患者血液中に色素含有のアラスモジウム原蟲を發見して其所見を公にしたれども近年に及んで毛蝨病原は一種のプロテウス桿菌ならんとの意見を發表せり北里博士は明治二十六年に恙蟲患者の赤血球にりヨフレル氏メチユレン藍色に染色せざる梨子狀、半月形、S字形等の小體あるを見て之れを恙蟲アラスモジウムと名づけ以て本病の病原ならんと唱へたるも其後中西博士池原學士和辻學士澤田博士等皆所謂北里氏のプラスモジウムは運動を有せざると染色せざる等の故を以て之れを人工産物となし毫も病原的價値を有するものにあらずと云へり淺川博士及び宮島理學士は昨年恙蟲病につき報告して曰く原蟲に關しては陰性成績に終りしと雖も一二患者より純培養したる大腸菌屬の桿菌は患者の血精により高度の稀釋度に於て凝集反應を現はし動物に對し病的作用を呈するを以て該菌は本病に親善なる關係を有すと云へり

▲緒方博士の發見　余等の恙蟲につき研究したる成績は昨年十一月本年三月及び本年十月の衛生學會に於て恙蟲病原は余の發見したる一種の原蟲にありて之れを恙蟲スポロツオアと命名したることを發表したり

▲研究の成績　余等は昨年及び本年の夏期に新潟縣

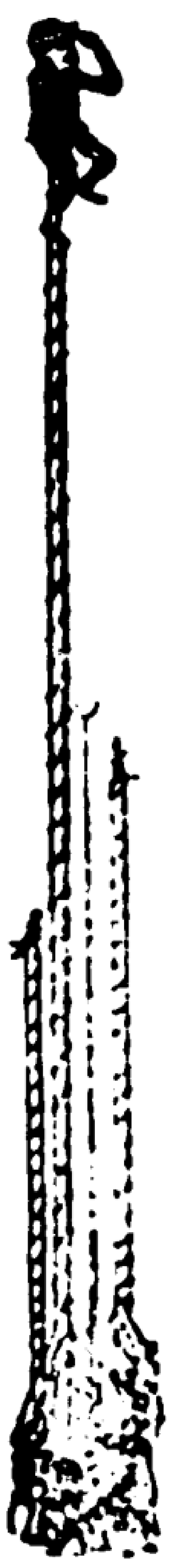
下へ出張し約三十名の恙蟲病患者につき又多數なる該病屍體の臟器及び患部の物質につき黴菌學上幷に原蟲學上の研究を遂げ其成績は時々本邦多數の醫學雜誌幷に獨逸醫學雜誌に公にせり今茲に其概略を記せば

恙蟲患者の潰瘍物質及び血液を試驗動物就中家兎の皮下に接種する時は多數の場合に於て該患者の症狀に一致する症候を呈し其の試驗動物より恙蟲病毒を他の動物に移植して之を傳染せしめ得べし

▲血精療法　余等は該患者の潰瘍物質及び血液より數種の黴菌純培養をなし以て數多の動物試驗等をなしたるも恙蟲病の病原と認むべきものを發見せず之れに反して該患者の患部組織幷に血液諸内臟中には未だ文獻上記載せざる一種の原蟲の存在するを發見し該原蟲につき種々の形態運動及び發育等の試驗を積みたるのみならず今日に至る迄原蟲につき純培養をなしたるは余の滴蟲純培養をなしたるとノウヰ、ネール二氏のトリパノゾームに之を遂げたる二例あるに止まるが余の考案に基きたる一定の方法によりて遂に該原蟲の純培養となし得たり因て其の培養につきて一には該原蟲の發育して種々に形骸を變化する模樣を檢査し二には該純培養を以て多數なる試驗動物の家兎、天竺鼠、南京鼠、羊、山羊、猿等に之を注射し或は其の注射によりて發生したる潰瘍物質等を他の健康の試驗動物に接種したるに其の注射部又は接種部に於て發生したる潰瘍及び之れに接近したる淋巴腺の腫脹及び斃死したる試驗動物の諸内臟に於ける病的變化は毫も恙蟲患者及び該屍體の病的變化と異なるなきを認め且つ多數の試驗動物の接種部を恙蟲患者につき經驗ある該病專門家の齋藤孫四郎氏に供覽したるに其の局部狀態毫も彼の恙蟲患者特有の盤口部に於ける膿胞痂皮潰瘍等と異なるなきを明言せり又試驗動物にして一回該病毒を接種し恙蟲病に罹り治癒したるものは二回の接種に對し恰も一回恙蟲病に罹り治癒したる者の再感すること少きが如く免疫となるを認めたり又

其の重症に罹り然る後治癒したる動物の血清は之を他の動物に注射する時は治癒の効力あるを確認せり

▲原蟲の變化　抑も多數の傳染病病原たる黴菌は分裂により増加し或は芽胞を生ずるも其の形體は甚だ簡單なり之れに反して傳染病病原たる原蟲にありては其の發育時期の異なるによりて複雜なる多樣の異形に變化すること蠶兒に種々の發育時期あるが如く蠶卵より孵化して小蟲となり進んで大蟲となり數回脫皮を遂げて繭を作り蛹となり蝶に變じ雌雄の別を生じ交接受胎して產卵するが如し恙蟲も略之れに似たる發育時期ありて種々多樣の形骸機能の變化を營むが如し。（つゞく）



●飲酒の害

醫學博士林春雄氏は日本橋區衛生協會雜誌に飲酒と血族の退化と云へる題目のもとに有益なる論說を揭げられたり今其大意を摘載せん

一ッ杯にして人酒を飲み二杯にして酒酒を飲み三杯にして酒人を飲むとは古人の金言であるが余は更に進んで一杯にして酒人を飲み二杯にして酒家を飲み三杯にして酒國を飲むと言つたらよかろうと冒頭を置き

▲酒に基因する疾病を擧げて曰く

諸種の精神病、神經病並に心臟脂肪變性、肝臟肥大、萎縮腎、肥胖病、痛風消化不良、等にして殊に血管の脂肪變性は腦に出血を來して所謂卒中又は中風症を起し之れが爲め飲酒家には天壽を全うすることの出來ぬ人が澤山ある

▲飲酒家は一般に短命　結核患者の如きは飲酒家に多しとは統計上明かなる事實にして酒は身體の組織の生活力を減ずるものであるから飲酒家が傳染病に罹ると豫後が極めて惡く肺結核の如きは早く死す肺炎、膓窒扶斯の如き熱性病に罹つたならば豫て心

臟が悪くなつて居るから心臟痲痺て倒れる者が多く飲酒家は一般に短命てある之れは生命保險會社多數の統計によつて明な事實て英國の一大保險會社のケーンと云ふ人の計算によると禁酒家は飲酒家よりも平均六ケ年長く生ると云ふて居る之れは大酒家を除いたものであるそうてす

▲飲酒が子孫に及ぼす害　飲酒家は第一に生殖力の減衰を來すものて飲酒の結果として全く子がなかつたり或は其數が少なかつたりするものてリヒリと云ふ人が二百人の飲酒家に就て調べた處によると酒を飲まない家族は平均四、一人の子供を持つて居るも夫婦の内何れか一人飲酒家てあると子供の數は一、三人又夫婦共飲酒家てあると一、〇人に過ぎずして男子の飲酒家は五分の一女子の飲酒家は三分の一弱は生殖力が缺けて全然姙娠しないと云ふ事てある

▲飲酒の不姙を來す原因　女の飲酒家は男の飲酒家よりも多く不姙性となる其原因は飲んだ酒が吸收されて男は睪丸女は卵巢に到り精蟲又は卵を毒害するからてコレハ解剖上飲酒家の睪丸に精蟲の居らぬものが百分中六十位の割合て之を酒を飲まぬ人に比べると精蟲缺乏の者が五倍も多いのてある婦人に月經障碍や下腹の疾患を起すのは酒の爲めに卵巢の損はれた結果てある但し適度の飲酒は別段數に於ては子供を生むことが少くないが

▲小兒死亡率の增加　飲酒家は一般に小兒を產む事が少い上に亦死亡數が多い或者は百人中四十四人は一二ケ月て死し兩親飲酒家の二十家族に生れた小兒二十四人中十六人は早く死し又百二十人の婦人の生んだ子供六百人の中て二歲迄に其過半數の死亡したるものありと尙數例を引きて飲酒家の子供の生活力が旣に薄弱になつて居る事が明てある

▲子孫の體質及精神の退化　飲酒家は大抵其父若くは母より飲酒癖を遺傳せられ之に伴ふ凡ての弊害も遺傳せらる大酒家の小兒には白痴又は痴鈍の者が多いとホヰー、ピーチ、ブルヌヴイル、キンドの統計

によりて例證を擧げて曰く殊に著るしい例はノールウエー國にて今より九十年前にアルコールの販賣を許した以來白痴の數が增加したのと其後五十年許過ぎて醫師がやかましく衛生を論じ人民に節酒をすゝめアルコールの消費量を減じた處が同時に白痴の數が減じたといふ事である

▲飮酒家の子孫には精神病が多い　多く海外に例を取り酒精中毒は直接に狂者を出すことが多く體質に於ても又不完全のものが多く卽腦水腫(俗に福助)などは殆んど其四分の三迄も飮酒家の子である其他の子は一體虛弱で肺結核や呼吸器病の素質を有するものが比較的多い

▲娘に乳の出ぬは父の大酒の原因　有名なる生理學者ブンゲ氏の調査によると母親の乳の出なかつたものは其娘も百人中九十九人矢張乳が出なかつた又母親は授乳が出來たが娘の乳の出ぬのが百人中六十七人位あつたと尙其他の例を引き要するに是は其父の大酒が原因であると云ふ事で母親の授乳するとせざるとては子孫繁榮上實に非常の影響がある夫れが爲め人工營養をなすに至る是れが又如何に小兒の死亡率を多くして如何に小兒を弱くするかは人のよく知る處である

▲大酒家の家族は絕滅せん　有名なるダルウヰンの祖父エラスマスダルウヰン曰く飮酒家は其子孫に精神病、腺病質、癲癇等の病氣を遺傳し其家族は遂に滅絕すべしと自身禁酒家であつたから千古の偉人なるダルウンの如き生物學者が其孫に出來たのであろう今ルグレンの一例を擧んに二百十五の夫妻卽ち四百三十人の者が三代の間に十七人の精神上若くは體格上退化したる人間に減少し其死滅するのも遠くないことが明かなる事實であるから自身の敗亡を招くのみならず引いて國家の健全なる發達を妨ぐるものであると結論には飮酒は醫學上前に述ぶる樣な害があるばかりでなく風敎上經濟上にも種々の弊害がある事を冷靜に考へたならば吾人は子孫の爲め國家の爲め否人類のために通喉三寸の美味醉餘半時の快

眠を貪る事を愼まなければならぬと思ふ後世酒を以て國を亡すものあらんとは大禹の金言であると古聖人の言を引き流麗の筆を以て大に飲酒の人類を苦毒することを説かれたり（文責記者にあり）

又林博士の嚴父本年六十七才にして尙矍鑠なるが氏も又飲酒の害を附け加へられたるがいと面白し

▲前略す、飲酒の害と申すこと拙老も聊か感じたるは明治十五年の恭意氣相投じたる同業者十二名團結し業務上の研究は勿論相互の交際其他各自幸不幸の時等には眞實兄弟同様の交際を成すべきを約し親和會と號し各月第一土曜日の夜各家順番に開會する事に決し會則は業務上の議論なり、謡曲なり、踊なり、圍碁なり總て隨意とし只親睦を旨としたる無意味の會にてありし、或時席上戯れに北島常泰氏曰く會員中林（予がこと）は體質虚弱にして腕力に乏しく顔色蒼青く酒は一杯も飲み得ぬと云實に氣の毒なる人にて會員中第一番に冥土のお客と成るならん其節は會員が懇切に世話する故今より禮を陳べて置け抔と申されたる時愚老之に答て否我輩は俗に云ふ柳に雪折れなしで天壽を全ふするとを自ら信じて疑はず諸君は日頃酒を好む恐らくはアルコール中毒て君等こそ中途に倒るゝならん小生其時は萬事世話してやるから有り難く思へ抔と互に悪口を言し事ありし其十二名は何れも天保の生れにて隅川宗悦、蓮沼誠造、北島常泰、其他金澤、村田、土屋、栗田、山川、池田等なりしに其十二名中九名は多くは四十三四才より五十二三歳にて死し隅川は六十五歳にて死したり此の九名は何れも大飲酒家なり今日存命せる三名山川幸善、七十五歳、池田玄泰、七十二歳愚老六十七歳此の三名の生存者は何れも下戸なり是等は甚だ少數の事にて例證にもならざるべけれども飲酒家は多く斯の如き比例ならんかと存じられ候回願するに九名の親友酒の爲に殺害せられ今日の愉快極る世界、第一流の大日本帝國の千古未曾有の活劇否國家の隆盛を知らずして死したるかと思ふと、いとあはれに

も又悲しく時々袖をぬらし申候併しながら小生は顏色等は自分に見ても甚だ老衰したるを信ずるも精神氣分に於ては少しも老たるの念なく種々娯樂に日々消光致候は不飲酒家の幸福かと存候他事ながら御放神被下度候以上は老人の寢言と御推讀被下度候云々

●理髮店の衛生

（横手醫學博士談片）

理髮店が病毒傳染の媒介を爲す危險は多けれど人は左程に注意せずされど更に一層の取[illegible]爲す必要あり先づ癩病、肺結核、梅毒、皮膚病等に罹れるものは理髮人たるの資格なく精神病者、癲癇等の病あるものも剃刀を取りて客に接せしむるは實に危險の至なるはいふまでもなし次に理髮用の器具は成るべく消毒し易きものを用ふべし鋏剃刀刈込器の簡便なる消毒法は理髮の前後にアルコールを付せる布にて拭ふかフォルマリン液にて少時間煮沸する要あり櫛は鋏等と同じく消毒法は煮沸するにあれば象牙馬爪等動物性のものは之を避けニッケル製のものを使用するを善しとす第三にフケ取は病毒を傳染せしむること殊に多ければ理髮店が之を使用することは廢止すべく刷毛も完全の消毒を施すには非常に手數を要する故廢止すべし此二品は無くても髮を梳るに差支なし若し強ひて必要ならば客自身の專用のものを携帶し行くべし海綿は廢止すべく耳掃除の棒も亦自家專用のものを用ふるを可とす首卷、胸掛、枕蔽等の白布にて直接に客の身體に觸るゝものは客毎に之を代へ顏頭等を拭く浴巾も亦常に洗ひ清むべし理髮室は撒水を怠らずして塵、埃の立たざる樣注意し唾壺の整理も一層嚴重に取締ること肝要なり病毒傳播の豫防法として最も注意すべきは理髮店より病毒ある客と見たる時は遠慮なく之を謝絕し又客自身も病氣の場合には公德を重んじて理髮店に立入らず職人

を自家に招きて用を便ずべし倘器具は出來得る限り自己專用のものを使用する方法を採ること最も必要にして若し器具の全部を備へ付け得ざれば殊に病毒の傳染を媒介し易き器具即ち刷毛、手拭、フケトリ等丈けにても携帶し行く樣に心掛け度きものなり云々



質疑欄

●●●質問注意　質問中診察せざれば應答し難きものは一切解答せず又解答に遲速あるは取調べの都合ある爲めと御承知を乞ふ●質問は端書にても封書にてもよろしけれど單に質問のみをわかりやすく認むる事●質問に姓名を出すことを好まざる方は匿名にても差支なきも事務所へは姓名御報知のこと●本號の雜誌に登載する分は凡て前月十五日迄に申込まれしものとす●總て急ぎの分は回答せず

質問者　地方　一會員

問　私子供事生後九ケ月にして腦膜炎を患ひ三ケ月にて全快致し候へども兩眼少しも見へず右は全く失明に相成り候ものや御伺申上候

答　腦膜炎の豫後は所謂馬鹿になるとか斜視になるとか失明するとか誠に良き結果を得ぬものが多いので先づ出來得る丈名醫に就き治療なすッて御覽なさい或は全く失明でなくすむかも知りません併し劇症の失明は迚も治療も屆きますまい

質問者　高崎　一會員

問　滋養物とは魚鳥獸鷄卵牛乳等と心得居りますが尙くわしく御敎示願上候

答　食物は何れも滋養を含まぬものはない只滋養の多いのと少ないとの差でありますくわしく申せば二大別して動物性と植物性に分れます動物性に屬する滋養物は乳汁即ち人の乳、牛乳及羊山羊、馬等の乳卵では鷄卵七面鳥家鴨鵝鳥等の卵肉類には獸肉、鳥肉魚肉等であります

植物性の滋養品から申せば穀類米、麥、粟、黍等殊に米飯、麥飯、粥等の製品其他大豆、小豆、ソラ豆、エン豆、豆腐味噌、薯類では甘藷、ジャガタラ芋、

百合、慈姑等です

質問者　小石川一會員

問　人間は百歳迄生きるものであると聞き及んで居りますが長壽をするには如何なる養生法をすればよきものや女と男と何れが長命に候や伺上候

答　人間は百歳迄も夫れ以上迄も長命を保つものがあります我國古代の人では武内宿禰が三百歳是れはあまりあてにはなりませぬが明治三十四年の統計では百乃至百一歳の男が三人女が十一人百一歳乃至百二歳で死んだ男が一人女が四人百三歳までの女が二人百四歳百五歳までの女が三人百六歳百七歳百八歳の女が一人づゝで六十歳位までは男の方が勝ッて居るがそれから後になると男が少くなッて百歳以上まで生るのは大概女ですソレで長壽と云ふことは一ッは遺傳にもよりますが注意によりてはよく天壽を全うすることも出來ます夫れは疾病に罹らぬように注意をするので飲食物には常に氣をつけて殊に酒の如きは多くの疾病を釀す源で精神病も胃病も癲癇も梅毒も卒中もマダ／＼澤山の病氣が是から出るのであるから禁止せねばならぬ大家の說に意志は人の壽命に大變な勢力を及ぼすもので自己は必ず長壽をするといふ强固な意志さへあれば屹度長壽をすると云はれたたとへば御正月も段々近くなりますが門松は冥途の旅の一里塚などいつて勉めて死に近くなつて行くのを數へている樣では元氣が沮喪しますから四十歳位を靑年六十歳位が若いもの六七十歳が男盛り位といふように自己に强き暗示を與へて意志の薄弱を抑へねばならぬ曾て佛國のフイノーと云ふ人の長壽論に長壽法は他なし其意志を强固にするにあると云はれた餘りアテにならぬ樣な話しではあるが決してソーでない然らば幸福の長壽を保つにはドウ云ふ暗示をすればよいかと云へば人生哲學の最も重要な戒律は左の如しであると

一身體を强壯にして長壽をすると云ふ意志を强くすることは何でも行れ

一意志を弱くすることは何んでも避けよ

一樂天家の書を讀み厭世家の書物を讀むな
一花卉や兒童にて身邊を圍繞せよ
一道路をあるくに下の砂石を見ないで天の星を見よ
一春を愛し晨の淸き露を踏め
一淸水を呑み冷水浴を行へ決して古き水を飮むな
一餘り過去の事を穿鑿するな寧ろ明日を思へ
一自分は毎年段々强壯になると考へて自から慰安せよ
一何事も過勞を避け遊ぶにも笑ふにも馬鹿〳〵しい樣でも兒童に眞似よ

かくするときはイクラ年齢をとりても段々心は若くなり從て長命をするものと云はれてある之を以て御答をして置きましやう

問　私事今年二十八歳に候へども顔に皺出來困り申候何にか矯正法無之候や伺上候

質問者　麹町　一會員

答　性質にもよりまして神經質の人には兎角皺が多く出來ますなんでも心は平靜にノンキにして營養と運動をよくして血液の循環をよくする爲め按摩するがよい顔面の按摩は一種の器械が出來ました近來美容術などに使用して居ります美容術とても一種の按摩術に外ならぬのであります其器械と云ふのは下の方に車があつて夫れを廻すと上の方のゴム球の扁平なるものが劇しく廻るので夫れを皺の方向にあてゝ摩擦するのである併し此器械なくも常に手指にて顔面の皺を摩擦するのも効があります顔を洗ふには餘り熱き湯はいけぬ硼酸を一とつまみ入れて洗ひ後は冷水にて洗はるべし總て顔をしかめることは悉く避けねばならぬ子供や下婢などをシカルときでもイヤな顔をシタリ所謂シカミ面などして皺をよせる樣なことしてはならぬ此場合には西洋婦人は鏡に向ひて己れの容色に氣を付けるといふコレは餘り極端なことであるが一體身體の按摩と云ふことは尤もよいことで養生訓にも敎へが出て居ります

凡そ一日に一度わが首より足に至るまで惣身のこらず殊につがひの節ある所こと〳〵く人になてさ

すり抑さしむる事各所十遍ならしむべし先百會の穴、次に頭の四方のめぐり次に兩眉の外次に眉じり又鼻ばしらのわき、耳の內、耳のうしろを皆おすべし次に風池次に頸の左右をもむ左には右手右手には左手を用ふ次に兩の肩次に臂骨のつがひ次に腕次に手の十指をひねらしむ、次に背をおさへうちうごかすべし次に腰及腎堂をなでる次に胸兩乳次に腹を多くなづる次に兩股次に兩膝次に脛の表裏次に足の裸足の甲次に足の十指次に足の心皆兩手にてなでひねらしむは養生の道なり

即成に皺をなくするは樂をしてうまい物即滋養物をたべビール多く呑むとふとりて自然皺もなくなるべきもビールを飲用して皺をなくなす如きは衞生的にあらずして害毒が之に伴ふものであるから採用することは出來ません

質問者　長野市一會員

問　腸窒扶斯の原因及傳染のわけ經過及治療法大略御教示の程願ひ上候

答　腸窒扶斯は甚だ微細なる微菌にして從來歐羅巴に蔓延したる傳染病で初め便所に落ちたる大便中の微菌が或は乾燥して塵埃の形となり空氣中に入り或は土中に浸入して遂には井水に混じ或は野菜に附着して傳染するもので發病迄は潜伏期は二週乃至三週を要し病毒は就中腸の下部に蝟集して潰瘍を發するに至るもので經過は定まりたる日限ありて即三週乃至四週とす然れ共惡しき合併症假令は肺、腦、腎、其他の病發生するときは大に永くなるべし快復期は頗る永き時日を要し再發も亦しば／＼目擊する處なり療法として血淸療法行はるゝもヂフテリヤ或は破傷風の樣な譯には行かざれども傳染病研究所に於ける四年間の經驗によれば每年十六プロセント以下の成績を得たりといふ

質問者　大坂　一會員

問　宅の小兒家屋普請の爲めフミ抜き致し醫療を加へ居り候へども破傷風はフミ抜きより起ると申し候へどもかゝる事も無之候や又其徵候治療法

等同上候

答　履み拔きをしたとて破傷風の毒さへ入らざれば別段御心配はありません此黴菌は土壌や馬糞の中などにありますから夫れで履み拔きなどをしたときは二十倍石炭酸などで充分に洗ふことよし此病氣は全身のヒキつる病で顔の肉などが硬くなッたり口があけなくなッたり總ての場所が硬まり疼痛劇しきもので大抵は死ぬ病氣としてありましたが血清療法が始まりましてから大に死亡數を減ずるようになりましたから疑はしきものは早く良醫の診斷を受けらるべし



●トラホーム菌の發見

トラホーム菌は泰西の大醫コッホ氏はじめ十數名の大家が研究する處ありしも未だ發見し能はざりしに元傳染病研究所技手奥田伸氏及遠藤芳藏兩氏の熱心なる研究により發見せられたりとて去月國家醫學會席上に於て之を報告して諸大醫の批評を求めたりといふ此病は傳染力の强きものにて世界中此患者の尤も多きは支那及び朝鮮で百人に對し六十人の割合で日本では百人に對し十人乃至十三人の比例にて世界中此病のない國は阿弗利加海岸の黒奴のみなりと兩氏の此黴菌を發見してより其治療法も從來の方法とは異り居るよしなるがトラホームに罹るものは俗に云ふ眼の性質が惡いのであるから小兒の時より眼の攝生を大切にして抵抗力をつよくせねばならぬ小兒を乳母車に載せ或は背におぶつて日光にジカに顔を向け目に反射させるのは尤も惡し又月夜の晩などに小兒の顔を月の光りに向けて見せるなどは何れも視力を弱めるのである

併しトラホーム菌の活動力は餘り强大なものでなく攝氏六十度位の熱とか又は二百倍の石炭酸中にあり

ては死滅するので眼以外には此黴菌は繁殖せぬといふ眼の弱い人は水道の如き清水にて朝顔を洗ふとき顔を洗ふ水と眼を洗ふ水とを別にして洗面するのはトラホームを豫防する上に於て尤も大切なることなりといふ

▲日本の死産　歐洲の中等位に比らべて見て日本におりては死産の數に尙三倍の多數に上れりと想ふに此死産中には恐るべき墮胎も含有せられ居るらん此墮胎は各地方の從來の弊風ありて殊に土佐、鳥取等は尤も注意すべき地なれば之れが救濟は目下の急務にして育兒院を設置し收容したきものなり

▲小兒と肺結核　肺結核は遺傳せぬ感染すると云ふことは今や誰しも知るところなるが其感染は患者の咯痰が乾燥して塵埃に交り空氣中に飛んで居るのが身體虚弱な人であると夫れに付け込んで這入りこむので空氣の中に飛んで居るのが這入るので、直接口からするのは飮食物からも無論傳染するが、小供のは多く物を舐るから起るのである。小兒は這ひ廻りながら疊を舐る事も有り、玩具を舐り手を舐る事などが多くある。この手を舐るのが極惡いので、色々穢ない物をいぢくつたのを終日洗ひもせずに居るのだから、何んな毒菌が附いて居やうも知れぬ。之が皆結核病に感染する基である。而して小供の結核病に腹(消化器)の病氣が多くて肺や其外の呼吸器に少ないものは、吸呼から這入る空氣傳染が少なくて直ちに口から這入る何よりの證據であるといふ

▲猫も安心ならず　從來猫はペストに對し不感受性のものとして一般にさしたる注意も拂はざりしに大坂市に於て猫のペスト病に罹りたる一事にして隨て猫の糞尿の如きも危險なるものなれば愛猫家は決して油斷すべきにあらざるなり

▲熱浴と僂麻質斯　日本人は一般に僂麻質斯患者の多い割合に重患者のないのは平生熱い湯に這入るからで決して惡いことではなきも冬季は身體が冷却して居るから急劇に熱湯に浴することは身體の皮膚神經に感じる事が少くない斯くては僂麻質斯を呼び起

す事があれば最初温湯に浴して皮膚を温め充分に温まりたる後に熱き湯に入る樣にすることと尤も必要にして心臟肺結核等の病ひある人は追々温浴をする習慣を作るべきなりと

▲睡眠と休養　アクランド博士は睡眠の重要なることに付き一場の演説を爲し其決論として左の如く言はれた

(一)充分な睡眠は生理上の必要である殊に未成年者に對してはソウである短時間の睡眠は其精力を減耗するのみならず心身共に其發達を沮害せられる

(二)子供の睡眠を妨げるのは恰も其成育を妨げるのと一樣である眠いとに對して子供の克己心を起させ樣とするのは恰も其目的とする所を喪ふべき錯つたやり方である

(三)子供に充分な睡眠を得らすと云ふとは放恣な習慣を付ける虞がない計りでなく却つて其健康に注意する良習慣を付ける原因である

(四)睡眠を中斷するのは食物を奪ふ樣な者である

尙博士曰く誰でも夏よりは冬になると餘計に眠らねばならぬ併して小供は九時間から十時間迄の睡眠を要す假令へ長時間眠りても音響や冷氣や明る過ぎるのや苦痛があつては夫れ程の効能がなく要するに一番善く眠れるのは就眠の第一時間で夜半前が尤もよく眠れるものなりと云ふ

▲齒の衞生と顏の美醜　神田三崎町なる血脇ドクトルの主宰せる東京齒科齒學院の留學生として今回歸朝せる奥村鶴吉氏には題目の如き談話を萬朝報記者に話されたりと今其要領を記さんに

▲米國人と齒牙　米國人が齒を大切にする事は實に驚くべき程でどんな人でも食後と眠る前には屹度齒を磨き殊に婦人は一層齒に注意します是れは第一に齲齒や口熱を防ぐ爲ではありますけれども米人は齒と顏の美醜との關係を非常に注意して居ますから衞生と同時に齒を行儀良く奇麗に躾けて顏容の美を助けると云ふ事にも非常に苦心して居るのです實際目鼻立が如何に立派でも亂杭齒だの味噌ッ齒だのと來

てはお互に餘り感服したものでありませんから日本の人も米國人のやうに歯の内容外觀共兩つ乍ら層一層の注意をして貰ひたいものです

▲顔面美醜の分岐點　前にも云つた通り男でも女でも顔の美醜は目鼻立によるなど丶云ふけれども上下の顎骨云ひ換ふれば鼻より下の動く部分の善惡は特に美人醜婦の分岐點をなすもので其の又上顎と下顎の大部分を占めて居るものは歯牙であるから歯の滿足でない人は假へ小供の内は何の異狀がなくとも段々年を取るに從つて上下の顎骨に影響を來して顔の角度に非常なる變化を起し飛んだ見つともない人間にしてしまひます尚又鼻孔に異狀があつて口から許り呼吸すると云ふと上顎の運動が激しい故に前に突き出て誠に醜い顔容となりますから此邊にも充分の注意をしなければなりません

▲母親の注意　歯と云ふものは遺傳性の人を除くの外は大抵元來は善良なものだけれども食物の奈何で大に歯を損じますし又強ち直接に食物が關繫なくとも澱粉質(含水炭素)を澤山に食はせる時は體内よりして間接に歯に害を及ぼす故世間の母親達は呉々も斯う云ふ事に注意して欲しい、小供の歯は最初二十枚の乳歯を生じ亞いで永久歯の先鋒として六歳頃に最終の兩端へ第一大臼歯が生じますが以上の乳歯が何れも生へ代るに是のみが何故代らんだらうなど丶て最も大切な此歯を無理に拔去るやうな母親があります斯んな母親は可愛い子の顔を態々醜くするもので其愚や實に及ぶ可らずですが併し之は專門のお醫者さんにも度々誤診る人があるから是亦よく〱注意すべき事です云々

▲花柳病と害毒　花柳病に冒され居る全國一等の階級は淫賣婦にして人員の二割五分乃至三割は該患者なり次に旅宿、料理店等の酌婦は其一割花柳病に冒され居り藝人は之に亞ぎ其割合は五分位なり次に最も少きは娼妓にして一見多きやうなれど嚴重なる檢査あるが故に事實に於て少なしと

▲癩病豫防法案内容　來期議會に提出さるべき癩病

豫防法案の主眼たる遠島隔離法に就て委員間に議論百出し之を遠島に隔離すべきものなりと主張するものと之を遠島乃至孤島に隔離するは人道に背反する處爲といふべく今日の醫事衞生的智識を以てすれば例之遠島ならずとも或る一定の場處に隔離收容せんには充分豫防の目的を達するを得べしと論ずる者とあり種々討議の結果後說勝を占め同法案中一旦規定せる遠島隔離の條項は全然削除せられたりといふ

▲內務省傳染病硏究所　去月三十日新築竣工式を擧げたる同所は世界の三試驗所とも云ふべきものにして歐米に對しても又誇るに足るものなりといふ

▲ペスト豫防液の成績　和歌山縣有田郡湯淺町はペスト流行地中殊に其猖獗を極めし處なれば去月中より一面大淸潔法を實施すると共に一面には豫防液の注射を行ひつゝありたるが元來同液は注射と共に反應を呈して被注射人に苦痛を與ふる者なれば全量を三分して三回に分ち注射を行ふの方法に依りしに第一回の注射のみを行ひし三千九百三十五人の中には僅二名のペスト患者を出したるも第二回注射人二千六百五十六人及び全量注射結了せし二千二百六十六人に付りて一人の同病患者も出さゞる由にて右試驗の結果は頗る好成績を呈したれば當局者に於ても今後益奬勵の方針なりと云ふ

▲混砂米排斥同志會　日本橋濱町に同會の事務所を置き盛んに會員を募集し混砂米を排斥すべしといふ新聞に雜誌に攻擊のため白米商恐慌を來たしつゝあり

▲昨今の小兒病　腸窒扶斯、猖紅熱、實扶的里亞の流行の兆あると共に今日鼻感冒と扁桃腺炎とは昨今非常に多く何れの醫家にも此等の患者を見ざるはなき有樣なり

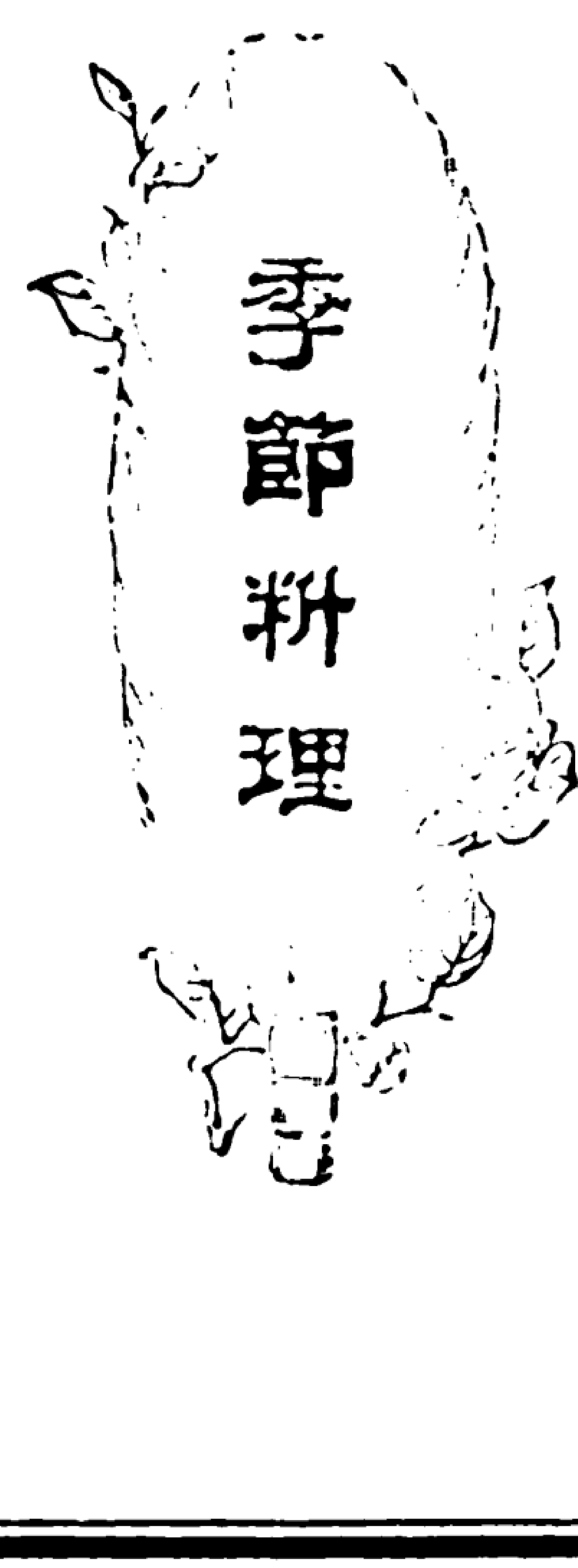
▲廣島の赤痢　廣島師範學校にては去月下旬二日間の行軍を爲したるに寄宿生二百八十名の中三十二名に感染し避病院に收容し舍內を消毒するなど教官の心痛一方ならざりしといふ

▲壽延　鍋島直大侯には六十一に當らせらるゝによ

り本月初旬自邸に於て還暦の祝賀會を開き朝野の貴女紳士を招待して盛なる祝典を擧げられしといふ又軍醫總監醫學博士なる佐藤進氏にも盛なる還暦の賀延を開かれしとの事なるが同氏の經營せらるゝ順天病院には愛婿親戚とを以て醫員となし五博士四學士を有すは目出たき一家なりといふべし

▲リデル孃の留別會　熊本回春病院基本金醵集に盡力中なる同孃は過勞の爲め少しく健康を害したる爲め數日鎌倉に滯在歸熊のため去六日築地メトロポールホテルに知友並に同情者を招待して鄭重なる茶菓の饗應ありしといふ





季節料理

治庖會本部教場主事　安西こま子

汲豆腐

▲椀　海あん掛

わさび

先づ豆腐の中汲（豆腐屋にて未だ匣に入れずかためざる處の豆腐を購ふ）を水を澤山に滿したる桶の如き器に入れおき、別に生醬油に少しく砂糖を加へて一寸と煮立て之に濃き鰹節の煮出汁を加へ煮立て其味を試み、醬油が不足なれば生醬油を加へ若し鹹ければ、鰹節の煮出汁を加へて程好き加減となし又之に晒したる粉葛を水にて溶きしものを加へて薄きドロ／＼の液汁をつくりおき、次に此本汁の他に湯を沸しおきて此中へ水に浮べおける豆腐を網杓子に

て掬ひ入れ、其豆腐が浮き上るを待て直ちに網杓子にて本汁の中へ掬ひ入れ、一寸と煮て椀に盛り、擦し山葵を添へて侑むべし

▲茶碗むし

かしは
慈姑
椎茸
三つ葉
さいがた魚肉

先づ黄鶏の笹肉を薄くへぎとなし之を生醤油にて一寸と洗ひて茶碗に盛りおき、次に慈姑の皮を剝き、水にて洗ひ、厚さ一分程の木口切となして之を沸騰湯の中へ投じ、柔らかにゆでゝ目笊に移し、水洗して又之を鰹節の煮出汁に少しく醤油を加へしものにて淡味に下煮をなして之を茶碗に盛り分けおき、次に椎茸を暫らく水の中へ放ちおきし後ち之を沸騰湯の中へ投じてゆでゝ水洗して程好く搾り、適宜に庖丁をなして慈姑と同様に下煮をなして茶碗へ盛り分けおき、次に三ツ葉を水洗して小束となし之を沸騰湯の中へ投じて程よくゆでゝ直ちに冷水にとり、輕く搾り之を鰹節の煮出汁四分と生醤油六分の割に合せたる汁にて洗ひ程好く搾り一寸四五分の長さに切りて茶碗に盛り分けおき、次に魚（白き肉の魚は何魚にてもよし）を三枚におろし、薄肉をへぎ、小骨を抜きし後ち之を骰子形に切りて生醤油にて洗ひ、茶碗に盛り分けおく而して諸品を盛りたる茶碗へ鶏卵汁を八分目程注ぎ込み茶碗の蓋をなさずして蒸籠の中へ並らべ入れて蒸す、凡そ十五六分にて蒸し終るべし但し鶏卵汁の製法は解きたる鶏卵一杯に鰹節の煮出汁二杯半と解きたる鶏卵汁の量の五分の一程の生醤油とを加へ合せるものなり

▲フイシユ、サラダ

セロリー

先づ鯛を切肉となし食鹽をあておきし後ち、淡鹽湯に庖丁せる玉葱を少々加へたる中へ右切肉を入れて湯煮を爲し、冷かしとき之に酢を撒りかけおくべ

し次にセロリーの皮を剝き適宜の厚さの木口切となし暫らく水に放ちおきし後ち、取出して水氣を切りおき而して鯛の切身にはマヨネーズソースを塗り、セロリーは、マヨネーズソースにてあへて皿に盛り合すべし但しマヨネーズソースの拵方は輕く茶匙一杯の芥子と同量の食鹽及び砂糖とを鉢に入れ、之に鷄卵の蛋黃一個を加へ食杓子に能く混ぜ次に絶へず攪交ぜながらヲリー油を二三滴づゝ垂らし込み髮附油の如きかたさとなりしとき之に酢を加へ以てゆるめしものなり

▲スライセス、ビーフ

先づ牛肉（イチポ二百四十目十二人前）を刺身の如く薄片に切り、フライ鍋に牛酪の小塊を入れ、溶るを待ちて右牛肉の薄片を入れ、黑く色付くまでいためて之をスチウ鍋に移し、其跡へ玉葱二個を適宜に庖丁せるものを入れ、赤黑く色付くまで炒りつけて右スチウ鍋に入れ、之に牛肉又は鷄肉のスープを加へ尙ほ之に食鹽と胡椒とを加へ味をつけ、暫らく煮て之にコンスターチ（玉蜀黍の粉）又は米利堅粉を水に溶きしものを注ぎ込みてドロ〳〵の液となし、文火にかけ、凡そ一時間半煮込むべし

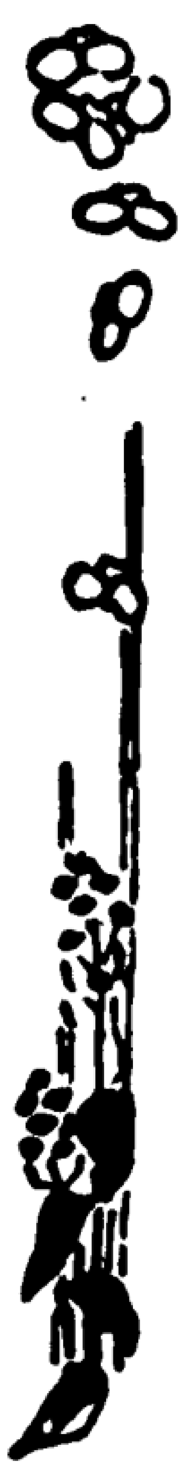
▲ピーナット、プーヂング

先づ牛の脂肪（俗にケンネと云ふ牛の生脂のことなり）五十目と食麵麭半斤（皮のかたき部分を除く）とをみぢんに庖丁になしおき、次に炊りたる皮付落花生一升の皮を除き之を庖丁にて細かく切りて擂鉢に入れ、落花生より油が出るまで能く擂り、之にみぢんになせし牛の脂肪と食麵麭と鷄卵三四個と米利堅粉貳十目程と砂糖（砂糖の量は適宜）とを加へ能く混合し尙ほ之に牛乳（一合强）とを加へてドロドロのかたさとなし、之を型に入れ（型なきときは茶筒を代用するも可なり又布に包みてもよし）て一時間半程湯煮をなすべし而して之を適宜に庖丁をなしクラレットソースをかけて侑むべし但しクラレットソースの製法は、赤葡萄酒二合と砂糖二十五六匁程とをソース鍋に入れて湯煮となし、砂糖の溶けるを

待ちてコンスターチを水に溶きたるものを注ぎ込みドロ〳〵の液となせしものなり
▲ブレット、バタ

●プーヂング

先づ食麪麭半斤のかたき部分を薄くへぎ捨て、厚さ三四分の木口切となし其各片の片面に牛酪を塗りてパイ皿即ち菓子燒皿（パイ皿なきときは丼鉢の如き器を代用するも可なり）の中へ斜めに立てかけて詰め込み、其麪麭の各片の間にカレンズ（山葡萄の乾したるものにして之を一寸と水に浸しへたを除きて用ゆ）を撒り込み次に牛乳貳合程と鷄卵四個と砂糖とを合せ能くかきまぜたるものをつくり之をパイ皿に注ぎ込みて麪麭を浸し而して天火に入れ、上面が少しく焦る程に燒くべし。



●お正月の雜煮　T. Y.

雜煮のこしらへ方は國々の風にて多少の違ひはあれども一般に餅は一家の和合を形取りて祝ふものなれば丸形をよしとす東京にては大形の餅にし之を長角に切れども之は手間をはぶきたるものなるべし又汁は甘味噌汁、鰹だし、昆布だしにするもありされば餅の形汁のこしらへ法などはいづれにもせよその元を正し且味の良きを賞翫すれば目出たかるべし
大皿又は大鉢の片わきに餅を盛り（燒き餅又は生餅にても餘り大きからぬをよしとす）一方にあしらへものを盛り壺に減せ汁を入れたる鍋を火ちりんの上に置きいづれも客の前に持ち出してこしらへながら椀に盛て客に進む之は時として中々興味あるものなり
今そのあしらへものゝ取り合せを示すべし
▲鳥類、ちくわ、糸こんにやく、かぶら、にんじん、鹽松茸、芋、みつばの類
▲燒肉の類又は一と鹽の魚類、芋、菜、牛房、大根、昆布、つと豆腐
▲かまぼこ、貝のはしら（又は貝類もよし）椎茸、くわゐ、芹、燒豆腐

▲するめ、昆布、菜、蕪菁、芋、干ゑび、又は白魚干海苔その他何肉にてもあしらへよき程に見つくろいて進むべし

●雜煮のあしらへ物こしらへ方

野菜は大概湯がき鳥と肉類は燒き又は一寸と湯がきたるをよしとす略せば生のまゝにてもよしするめは前日あく水に浸し柔らかになりたるものを短冊切にす魚類は長角に切り燒くものはやき一と鹽のものは一寸と湯がくなりちくわ、かまぼこ貝類は別にゆがくに及ばず干ゑび白魚干は是も暫時水に浸し柔かにすべし餘り長く水に浸す時は味ひを失ふなり

●早　雜　煮

切餅を細く二ッ三ッに切り常の如く燒き椀の中へ入れ其上に花がつを(かつぶしを薄くけずりたるもの)白すぼし、おぼろこんぶ、三ッ葉又は淺草のりを入れ醬油を適宜にいれ沸え湯を注ぎ蓋をなし暫時にしてすぐ食すべし但しあしらひは此かぎりにあらず即席に出來て又中々興味あるものなり

●口直しの即席雜煮

一月來客に箸を取らする妻君宜しく注意すべきことにて大方門並にて夫々式の御馳走は受けられて滿腹の方々もあるべし之等の客に吸ひ物と雜煮を代用せしむるものは先餅を二分か三分四方の賽の目切りにし(あられ切とも云ふ)金網にてこげぬ樣に燒いて椀の中へ五ッ許り入れあしらひには柚又は風がわりには梅干を包みたる紫蘇を細かに切り一とつまみ程椀の中へ入れ醬油も少々落し入れ而して沸へ湯を注し入れ蓋をして客に供す今ひとつとおかはりされてまごつかぬ樣に代りの分も序に用意なし置くべし併し沸湯を注して用意すべからず客に供する前に當りて湯を注し出すべし

●手輕の茶椀むし

萬事を略して新年手取りばやに拵へる仕方を記さんに一人前なれば茶椀大なれば玉子も大一個したじのだし汁は茶わんに應じて小鍋に少しこしらへて冷し

置き鶏卵とよく攪きまぜ茶わんの中へ種もの〻隱る〻まで八分目程注ぎ込み又茶碗のはいるほどの小鍋に（深ければ何よし又御膳ふかしてもよろし）湯を少し入れ茶わんを其中へ入れて鍋の蓋をなし湯を沸立つれば暫時にして蒸せるなり茶わんの中へ湯の入らぬ樣注意すべし但種物は夫れ〳〵好みもあれどゑび又は切身何れも湯がきゑびは皮をむきたるもの或は燒魚、鶏肉、牛肉、貝のはしら、くわゐ、三ッ葉、チクワ、椎松茸等何品にても程よく入るべし蒸すことは大層面倒の樣ではあるが用意さへして置けば誠に簡易なことゝて滋養も多く寒いときなど大に客人を悦ばすなり

大日本婦人衞生會記事

本會十二月例會

十二月一日第一土曜日午後一時半より神田區一ッ橋通女子職業學校に於て本會本年の納會を開く會長鍋島侯爵夫人にも參會せられドクトル富士川游君には疾病の話と云へる前回の續きを講話せられ當日は圖畫及美顏術に要する嶄新の器械を持參して實驗せられ醫學博士榊保三郎君には女子の精神衞生と云へる演題にて婿撰み花嫁の衞生等に就き例證を舉げて演說せられ散會後出席役員一同は來春新年會の事など協議して午後四時半頃全く閉會せり

當日出席の役員には評議員長谷川仲子、濱尾副會長、田村きよ子、山本多穗子、岡田總子、鍋島會長、三浦数子、岡山とし子、羽川三緒子、石川さだ子、三宅ふじ子、小川孝子諸氏（出席順）

山形支會報告

●十一月例會

十一月十日午後二時より山形市なる女子師範學校内に於て例會を開く會員傍聽生共約百名余左の講話ありて四時散會せり

一衞生上の衣服に就て　穗田醫學士

當日出席の役員左の如し

馬淵會長、岩本副會長、細野、關原、館、佐柳、北島幹事等

＊　＊　＊　＊　＊

新潟支會報告

●十一月例會

十一月十八日午後一時より新潟市婦人教育會と聯合の上同市なる師範學校附屬小學校に於て例會を開き左の講話ありて出席者約六十名なりしと

一大腦の話　新潟高等女學校教頭　安田信吉君
一小兒の病氣に就て　醫學士　工藤秀一郎君

○本會入會者

○事務所申込
●牛込區市谷田町二ノ廿一　通常會員　鳥山たつ子
●仙臺市東四番丁十八　通常會員　松良たき子
○麴町奥田綾野子紹介
●日本橋區濱町二ノ八　通常會員　藤野菊枝子
○麴町青戸咲子紹介
●神田區山本町六　通常會員　秋本あぐ子

○京橋白神茂子紹介
●日本橋區呉服町十二　通常會員　橋本ひし子
○京橋越智雪子紹介
●本郷區千駄木町一　通常會員　鈴木鈴子
○大學諏訪なみ子紹介
●秋田縣鹿角郡毛馬内町　賛成員　小笠原季治君
●同所　通常會員　勝又ひさ子
●同所　通常會員　中津山さよ子
○麴町岩下ゆか子紹介
●麴町區紀尾井町三　特別會員　鶴岡誠子
○廣島友近里子紹介
●　通常會員　菱沼小夏子

●高崎支會入會者

○星野きよ子紹介
●高崎市赤坂町百七　特別會員　渡邉龜子
●本會ヨリ轉會　通常會員　相良濱子

●宇都宮支會入會者

○柴田しづ子紹介
●宇都宮市松峰町　通常會員　佐久間やす子
○福井よし子紹介
●全市上都賀郡鹿沼町　通常會員　唐木りう子

●新潟支會入會者

○澁川たま子紹介

●新潟市旭町二番丁五千二百卅九　通常會員　須内　ひさ子

○若松よし子紹介

●同市學校町通二番丁四十四　通常會員　伊藤　よし子



新刊寄送書紹介

内閣統計局臨時刊行

●分量的に觀察したる脚氣　壹部

右内閣統計局より寄送せらる本書は宮入慶之助及二階堂保則兩氏研究の結果を公表したるものにして脚氣病研究に稗益すること多大なりといふべし

博學堂編輯部編纂

●婦人座右銘　袖珍一册　定價十五錢

東京京橋區本八丁堀一村目十五番地

發兌元　博學堂

新時代婦人の教訓となさんが爲め現代諸家の所説及俚諺箴言等を蒐集したるものなれば何れも心肝に銘すべき字句多し宜しく座右に置きて愛讀反省すべき好著なり

新案**國旗合せ**　十枚一組（八十枚）　定價二十錢郵税二錢

東京本郷駒込西片町十番地　内外出版協會

去年家族合せは同協會から出版して大層流行しましたが本年の新案國旗合せは彩色があるから誠に奇麗で字のよめない人にも誰にも出來る是れは家族合と少し違うのは己れの札を見ないで互に合せるので日英の國旗が出たときは互に萬歳を唱へるとか同札の合ひたるときは互に面白い綽名を付けて置いて言い合ふとかいろ／＼の規則があつて中々面白い夫れに子供などには各國の國旗を覺へさする利益があるから來春にかけて又々歡迎されるであろうから協會はます／＼ニコ／＼ならん

○轉居



●芝區高輪南町へ　津田勝子

●牛込拂方町十へ　服部仲子
●品川御殿山七百十八へ　山地謙子
●熊本市比丘尼町二十へ　渡邊千賀子
●佐世保市永尾町第一號へ　大館きみ子
●麹町區有樂町一ノ三中山邸內伊藤政太郎方へ　高橋のぶ子

●寄贈交換雜誌

●日本赤十字　京橋區築地二ノ廿一　日本赤十字發行所
●日本婦人　府下豐多摩郡澁谷村字常磐松御料地內　帝國婦人協會
●新潟縣衛生會雜誌　新潟縣廳內　新潟縣衛生會
●日本の家庭　神田區神保町二　同文館
●日本の商品　名古屋市矢場町一ノ切二七一　日本の商品社
●統計集誌　京橋區山城町六　東京統計協會
●東京藥事新報　京橋區桶町四　東京藥事新報社
●東京市教育會雜誌　東京市役所內　東京市教育會
●東京小間物化粧品商報　日本橋區馬喰町二ノ十九　東京小間物化粧品卸商事務所
●同仁　神田一ツ橋通町廿一　同仁雜誌社
●東京文具紙硯商報　日本橋區檜町四ノ十二　仝社
●治療藥報　日本橋區南茅場町二　治療藥報社
●女醫界　牛込市谷河田町　東京女醫學校
●大坂婦女新聞　大坂西區江戶堀南通一ノ十四　大坂婦女新聞社
●家庭新聞　熊本市內坪井町一五八　家庭新聞社
●家庭雜誌　麹町區元園町一ノ廿七　由分社
●家庭の栞　新潟縣女子師範學校內　新潟縣女子教育會
●大日本私立衛生會雜誌　京橋區宗十郎町七　大日本私立衛生會
●體育　府下荏原郡大井村字北濱川　日本體育會
●通俗衛生　大坂西區土佐堀三ノ廿九　大坂私立衛生會
●なてしこ　麹町區下二番丁卅七　大日本女學會
●牟婁新報　和歌山縣西牟婁郡田邊町上屋敷六六五　牟婁新報社
●藥學雜誌　牛込區下宮比町八　日本藥學會
●藥石新報　大坂西區江戶堀下通三ノ卅六　藥石新報社
●染業時報　神田區鍛冶町廿一　染業時報社
●婦人世界　大坂南區末吉橋通四ノ六十三　浪華婦人會
●婦女新聞　牛込區東五軒町四十一　婦女新聞社
●國家醫學會雜誌　本鄉區富士町一　國家醫學會雜誌發行所
●工手ノ母　大坂北區西野田新家四ノ町番外三二五　工手の母新聞社
●交通世界　埼玉縣浦和町三九三五　交通協會
●越佐教育雜誌　新潟市東仲通一番丁二七　越佐教育雜誌社
●廣島衛生醫事月報　廣島市猫屋町　廣島衛生醫事月報社
●英學生　神田區駿河臺北甲賀町十　東四社
●衛生新報　和歌山市小松原通三ノ二　衛生新報社
●衛生新報　下谷池ノ端仲町十九　衛生新報社
●愛國婦人　麹町飯田町一丁目　愛國婦人發行所
●草樂新聞　大阪南區心齋橋筋二ノ百七　草樂新聞社
●產科婦人雜誌　日本橋區濱町三ノ七　日本產科婦人協會
●埼玉衛生新誌　埼玉縣北足立郡浦和町二三五　埼玉衛生新誌社
●教育公報　神田區一ツ橋通町　帝國教育會
●明治の家庭　牛込區納戶町五　明治の家庭社
●みづゑ　小石川區關口駒井町三　春鳥會
●兒童教育　神田區末廣町十　兒童新聞社
●神經學雜誌　小石川區駕籠町東京醫科大家精神學教室內　日本神經學會

私立大日本婦人衛生會茨城支會規則

開設の趣旨及目的　凡人生の幸福を保持するには完全なる教育を望まざる可らず之を望まんとするには必ず衛生と相竢ちて而る後始めて全き事を得るならん。されば吾人は現今東京に於る衛生の事項をして益研究し益改善を圖りて其の發達を互に努め力めんとするに在る而已●本會は私立大日本婦人衛生會茨城支會として之を當水戸市に置く●本支會々員たるを望む婦人は何人にても入會するを得●入會手續入會の節は氏名族籍住所等を明記し本會事務所に申込む者とす。但し會員證は東京本部へ通知し然るのち之を交附すと雖とも徽章代は豫め前納せらるべし●會員種類會員を分ちて特別。通常。終身の三種とす終身會員は一時に金廿五圓以上特別會員は一月金三十錢以上通常會員は一月拾五錢を納むると●男子にして本支會の趣旨を贊成する通常者は之を贊成員とす●本支會員は本部にて毎月發刊する雜誌を無料にて受くるとを得●退會せんとするものは其旨本支會事務所に報知すべし。（死亡等は親戚知人より通知せらるべし）●支本會に左の役員を置く支會長一名、副支會長、幹事六名、評議員十名、書記、會計、庶務は幹事中より各二名づゝ互撰分擔す●役員は任期滿一ヶ年とし毎年五月總會に於て投票を以て之を定む●集會は例會總會評議員會及臨時會とす集會八月を除く毎月一回第三の日曜日に之を開く總會は五月適宜の日を以て之を開く急要の件あるときは臨時會若くは評議員會を開きて評議する事あるべし●毎會學識經驗ある知名の士に囑托して衛生上の講義演說又は之に關した實驗等をも爲し本支會員に聽講せしむ但會員は知人家族等誘引して參會することを得（此際出席の衣服は總て質素たるべし）●會員中若し本會の障害となるべき所爲ある者又は會費を滯納するもののある時は本支會長評議會の決議を經て除名する事あるべし●玆に記述したる數項の他その必要と認むべき事項あらば成る可く本部規則を適用するものとす

●明治三十四年十月創立

水戸市上市田見小路二十五番地

茨城支會

私立大日本婦人衛生會新潟支會規則

●第一條　本會は大日本婦人衛生會に屬し婦人衛生の研究を目的とし兼て一般慈善事業を爲すにあり●第二條　當支會の會費は左の六種とす終身會員一時限り出金貳拾五圓　特別會員毎月金參拾錢通常會員仝金貳拾錢　支會員甲毎月金拾錢乙仝金五錢●第三條入會せんとするものは役員に申出て其承認を得べし●第四條會費毎月拾五錢以上を納むるものには本會衛生雜誌を配布す●第五條會費は雜誌料として一部を本會へ納め殘金は銀行へ貯蓄して衛生慈善資金とす●第六條支會には會長一名副會長一名評議員十五名幹事五名理事一名を置く會長副會長は總會に於て公撰し評議員幹事は會長之を撰任す　各役員の任期は一ケ年とし再撰するを得役員は總て無給とす●第七條支會は毎月六日通常會を開き衛生及び慈善に關する演說をなすべし●第八條毎年一月總會を開き支會の要務を執行す●第九條本會は毎年春期懇親會を催し時宜によりては慈善販賣店慈善演藝會等を開くことあるべし●第十條天災事變に際し慈善救濟を要する場合に於ては特に會員中の有志者より物品の寄贈を募ることあるべし會員外の篤志者より臨時金品の寄附あるときは役員の協議を以て特待員又は贊成員となすべし●第十一條一般慈善事業の贊助天災事變の救濟の事務は役員會の決議により實施するものとす●第十二條支會々員は服裝其他を質素にし集會の際には成可く綿服を着用すべし●第十三條特に本規則に揭げざるものは私立大日本婦人衛生會の規則を準用す

明治廿九年四月創立

事務所新潟市本町通十三番戸中村しけ子方

新潟支會

私立大日本婦人衞生會山形支會規則

第一條 本支會は私立大日本婦人衞生會々員山形市在住者を以て組織す●第二條 本支會に會長副會長の外幹事四名評議員若干名を置く會長副會長は公撰し幹事評議員は會長之を選任す 役員の任期は一ヶ年とす●第三條 本支會は毎月一回(第一日曜日)講話會を開き毎年一回(五月)總會を開き講話の外役員の撰擧庶務會計の報告をなす●第四條 入會せんと欲するものは宿所姓名並に第五條の通り會費を添へ會員に紹介を依賴すべし本支會を退會せんとする時は其旨幹事に申出つべし●第五條 本會々費は會計幹事に納むべし但し六ヶ月又は一ヶ年分新に入會のものは其月より六月又は十二月迄の分を一時に納むべし●第六條 服裝は精誠質素なるを要す上着及羽織は絹布を用ひるを禁ず

明治三十三年二月四日創立

事務所山形市旅籠町新築四通二百八十九、北島氏方

山形支會

私立大日本婦人衞生會宇都宮支會規則

第壹條 本支會ハ私立大日本婦人衞生會宇都宮支會ト稱ス●第貳條 本支會ニ會長一名副會長一名評儀員拾五名幹事四名ヲ置ク會長副會長ハ公撰シ評議員幹事ハ會長之ヲ撰任ス 各役員ノ任期ハ一ヶ年トス●第參條 毎月壹回(第一日曜日)講話ヲ開キ毎年五月講話ノ外役員ノ改撰庶務會計ノ報告ヲナス●第四條入會ハ宿所姓名ニ第五條ノ通リ會費ヲ添ヘ事務所ヘ申込ミ又ハ會員ニ紹介ヲ依賴スベシ本支會ヲ脫會又ハ本會ヲ退會セントスルトキニ其旨事務所ニ屆出ツベシ●第五條本會々費ノ外別ニ支會々費ヲ要セズ會費ハ一時ニ六ヶ月又ハ十二月分、新タニ入會ノモノハ其月ヨリ六月又ハ十二月迄ノ分ヲ納ムベシ●第六條本支會ハ別ニ支會々員ヲ置キ支會會費トシテ一ヶ月金五錢ヲ納ムルモノトス●第七條講話會ニ出席ノ節ハ成ルベク家族又ハ知合ノ婦人ヲ誘引シ傍聽セシムベシ●第八條服裝ハ精誠質素ナルヲ要ス上着及羽織ハ絹布ヲ用フルヲ禁ズ第九條特ニ支會規則ニ掲ケザルモノハ本會ノ規則ヲ準用ス

明治三十四年二月三日創立

事務所宇都宮市三條町石田氏方

宇都宮支會

明治二十六年四月四日第三種郵便物認可

私立大日本婦人衛生會徽章規程

第一條　大日本婦人衛生會々員は其會員たることを表するため左の徽章を用ゆ





●本會徽章料左の如し

●通常會員章

第三號　メッキ製拾二錢、送費六錢

第二號　正銀製四拾錢、送費六錢

●終身及特別會員章

第一號

七十錢（黒塗箱入 送費九錢）

六十錢（桐箱入 送費六錢）

第二條　會員章は本會幷に支會の集會に出席する場合は勿論襟止兼用の便あるを以て成るべく平素佩用して廣く本會の普及を圖るを要す

第三條　本會徽章は右の實價を以て會員に頒つ

入會注意

●御入會の際は三ヶ月以上の會費前納にて申込まるへし會員章は上段記載の實價にて御頒ち申候へども送費とも必らす御前納のこと●東京府下に限り毎月雜誌の配達を兼れ會費領收人を差出すべしと雖も郡部の方は地方會員の部として領收者差出不申候但東京府下の會員にても會費前納せられ合せて郵送料たも御納付相成候へば雜誌發行次第直ちに郵送可致候●追て支會々員は支會へ會費御納付のことゝす●會費は郵便小爲替にて本會事務所々在の郵便局（東京牛込築土八幡町郵便局）宛振出あるべし●會費受領證を要する節は送費として郵券一錢五厘封入せられたし●轉居せられたるときは其の旨必らず本會事務所宛通知せらるべし

●會員御紹介下され候御方には其人數丈の本會雜誌進呈

廣告料　一頁五圓半頁其二分一以下同之　●特別廣告一頁拾圓半頁其二分一以下同之

本誌一部定價貳拾錢

發行所　東京市牛込區上宮比町八番地　私立大日本婦人衛生會

編輯兼發行者　東京牛込區矢來町三番地　田中鶴三郎

印刷者　東京牛込區市ヶ谷加賀町一丁目十二番地　飯田三千太郎

明治三十九年十二月十六日印刷
明治三十九年十二月二十日發行（毎月一回二十日發行）

印刷所　東京市牛込區市ヶ谷加賀町　株式會社秀英舍第一工場